モノグラフ・高校生'86

vol.17 女子高校生—女の子らしさへのあこがれ—

目次

はじめに……深谷昌志 前田一美…2

1．テーマの設定……2
2．調査校の概要……2
3．本報告書の要約……4

第Ⅰ章　女子高校生の生活実態……5

1．女子高校生の行動経験……5
2．女子高校生のふだんの生活……10
3．女子高校生の持ち物……12

第Ⅱ章　女子高校生の意識……20

1．高校生のしていること……20
2．女子高校生の性意識……22
3．女の子としてのしつけ……23
4．高校生活の楽しさ……27

第Ⅲ章　女子高校生の抱く未来像……34

1．女子高校生の将来設計……34
2．高校生の抱く家庭の姿……37
3．女子高校生が望む女性の生き方……40
4．フルタイム志向の女子高校生像……44
5．新しいタイプの女性はこうして作られる……47

まとめに代えて……50
資料1　調査票見本……51
資料2　基礎集計表……65

※おことわり　本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

はじめに

放送大学教授　深谷昌志
日本医療福祉専門学院専任講師　前田一美

1．テーマの設定

私立の女子高校で、生徒の結婚をめぐって退学さわぎが社会問題になった。大方の意見は、そうした事態そのものにおどろきを伴ったようであったが、正直なところ、やっぱりそうした時が来たのかというのが、筆者の感想であった。

アメリカなどで、未婚の母専用の高校が設立されたと聞く。日本でも、大学生になると一人前扱いをするので、結婚はともかく、同棲やそれに近い生活を送っているカップルが少なくない。

大学生ならよいのに、高校生では異性とのつき合いがなぜいけないのか。つっぱりの生徒でなく、まじめな子どもたちが結婚したいといい始めたら、どう説得したらよいのか。せめて高校を出るまで待てと、たいして説得力のない形で話をする以外に有効な方法はあるまい。

しかし、幸か不幸か、一部の生徒たちを除いて、多くの生徒たちは地味で、禁欲的な高校生活を送っている感じがする。異性といっても淡い片想いで、それ以上のふれ合いはない。そして、お化粧も、ドライヤーで髪の毛をブローするか、リップクリームをつけるくらいしかしない。将来についても、家庭を大事にして、夫に尽くし、子どもを大事に育てたいと思う。

そうした保守的ともいえる女子高校生が多いのではないか。しかし、それはあくまで仮の姿で、実際は、もっと大きく変化しているのかもしれない。そうした姿を、確かめてみたいと調査を行うことにした。

2．調査校の概要

(1)サンプルの構成

本調査の対象校は、九州、東海、北陸、近畿にある公立女子高校2校、公立共学校1校、私立女子高校1校で、サンプル数は高1～高3の女子3,020名である。昭和60年6月～7月に、学校経由の質問紙調査を実施した。

(調査対象校の特質とサンプル数)

		学科	進路(昭和60年)志望率(%) 4年制大学	短期大学	専修・各種学校・他	就職・他	サンプル数(人) 性別 女子	学年 1年	2年	3年
九州A校	公立女子校	普通	65.5	21.2	4.4	8.9	1,253	397	419	437
東海B校	公立共学校	普通	23.3	38.9	16.7	21.1	238	0	238	0
北陸C校	公立女子校	普通	19.3	35.6	19.8	25.3	785	263	263	259
		家政					261	85	88	88
		看護					118	40	40	38
近畿D校	私立女子校	普通	11.4	45.7	8.0	34.9	365	130	118	117
合計							3,020	915	1,166	939

(2)調査対象者の特質　調査対象になった生徒の基本的属性は以下の通りである。

①性別　女子　3,020名

②学年別

(%)

1年	2年	3年
30.3	38.6	31.1

③自己像

(%)

	とても得意	かなり得意	やや得意	ふつうぐらい	やや苦手	かなり苦手	とても苦手
英語の成績	0.8	3.1	13.9	26.0	22.0	16.6	17.6
数学の成績	0.8	3.1	11.5	22.8	20.5	19.2	22.1
スポーツ	3.8	7.0	14.7	33.5	18.4	11.4	11.2
がんばる力	3.9	7.4	15.3	42.1	16.3	7.3	7.7

④進路希望

(%)

就職	家業 家の手伝い	各種学校 専修学校	短期大学
13.2	0.1	13.8	21.7

やさしい 4年制大学	むずかしい 4年制大学	その他	未定
11.5	21.5	2.1	16.1

⑤部活動への参加

(%)

運動部熱心	運動部不熱心	文化部熱心	文化部不熱心	以前参加	不参加
19.1	5.7	20.9	19.1	21.8	13.4

⑥父母の学歴

(%)

	中学校	旧制中学・高等女学校高等学校	短期大学	大学大学院	その他	いない
父	17.0	53.3	1.3	24.6	2.1	1.7
母	21.1	64.6	3.6	6.0	4.2	0.5

3．本報告書の要約

① 高校生になってからしたこと(図Ⅰ－1)

半数以上がしたことのあることは、ハンバーガー店に入ることと、リップクリームをつけることくらい。「ラブレターを出す」は9％、「ディスコへ行く」は8％にとどまっている。

② ふだん家でしていること(図Ⅰ－2)

テレビを見ることと勉強することくらい。

③ 自分で持っている物(表Ⅰ－6)

ラジカセ (80%) ドライヤー (55%)
マニキュア(38%) アイシャドウ (17%)
皮ジャン (2%) スケートボード(1%)

全体として、物を持っているといっても、節度を守っている感じがする。

④ 性について(表Ⅱ－1)

好きな子と肉体関係に進むのは「進まない方がいい」61%、「どちらともいえない」29%、「進んでいい」10%で、全体として慎重派が多数を制した。

⑤ 母親からのしつけ(表Ⅱ－4)

「女の子は勉強はほどほどでよい」と言う母親は11%と少ない。しかし、「女の子らしく家事を手伝いなさい」と言う(77%)母親は多い。きびしすぎず、ほどほどのしつけという感じがする。

⑥ 生まれかわるとしたら(図Ⅱ－2)

ぜひ男 14%
できたら男 27%
} 41%

できたら女 37%
ぜひ女 22%
} 59%

幸せな生活を反映してか、女の子の方がよいという生徒が増加している。

⑦ どんな家庭を作りたいか(表Ⅲ－2)

結婚したら、妻は家に入る(62%)、夫は家事を手伝わなくてもよい(73%)、お昼のお弁当を作ってあげる(93%)など、妻が夫に尽くす形の家庭を描いている。

⑧ どんな生き方をしたいか(表Ⅲ－3)

いざとなれば仕事優先 13%
仕事と家庭の両立 33%
} 46%

子育てを終え仕事を 16%
主婦生活を大事にパートを 25%
専業主婦 13%
} 54%

仕事へ意欲をもやす生徒は多いとはいえない。家庭を大事にしたいという生徒が半数を超える。

第Ⅰ章 女子高校生の生活実態

1. 女子高校生の行動経験

高校生という年齢は、性的にはすでに成熟しているが、精神面や社会面での成熟が伴わないアンバランスの目につく時期といわれる。それだけに、青年期の発達課題の達成に失敗すると、ともすれば不純異性行為、少女売春等の非行に走りやすい。特に女子高校生は、性的な成熟に伴う誘惑と禁欲との谷間でゆれ動く感じになる。

そこで、本章においては、女子生徒の生活実態を探ることにしたい。

まず女子高校生に、高校に入学してからどのような行動経験を持っているのかをたずねてみた。あらかじめ25項目を用意し、その経験を、「1回以上ある」割合の高い順に並べたのが、図Ⅰ－1であり、さらにくわしく経験の度合いを示したのが表Ⅰ－1である。

図Ⅰ－1に目を通していただきたい。一見して、経験の乏しさが目を引く。5割以上の女子生徒が経験している項目をみると、「①ハンバーガー店に入る」95%、「②喫茶店に入る」79%、「③リップクリームや口紅をつける」77%、「④コンサートやライブハウスに行く」52%の4項目に限られている。

そして表Ⅰ－1が示すように、女子生徒がわりと頻繁にしていると思われる行動を、「何回もある」に着目してみてみると、「①ハンバーガー店に入る」75%、「②喫茶店に入る」56%、「③リップクリームや口紅をつける」66%が5割を超えるだけで、他の項目はいずれも3割以下で、中でも1割以下の項目は18に達

する。

そして女子高校生というと、おとなたちが心配する前非行行動、例えば「⑩友だちと酒をのむ」「⑪パーマをかける」「㉒ディスコに行く」「㉓タバコをすう」などの常習犯も6～2％にとどまっている。したがって、全体としては心配するほどの数値でもないように思える。

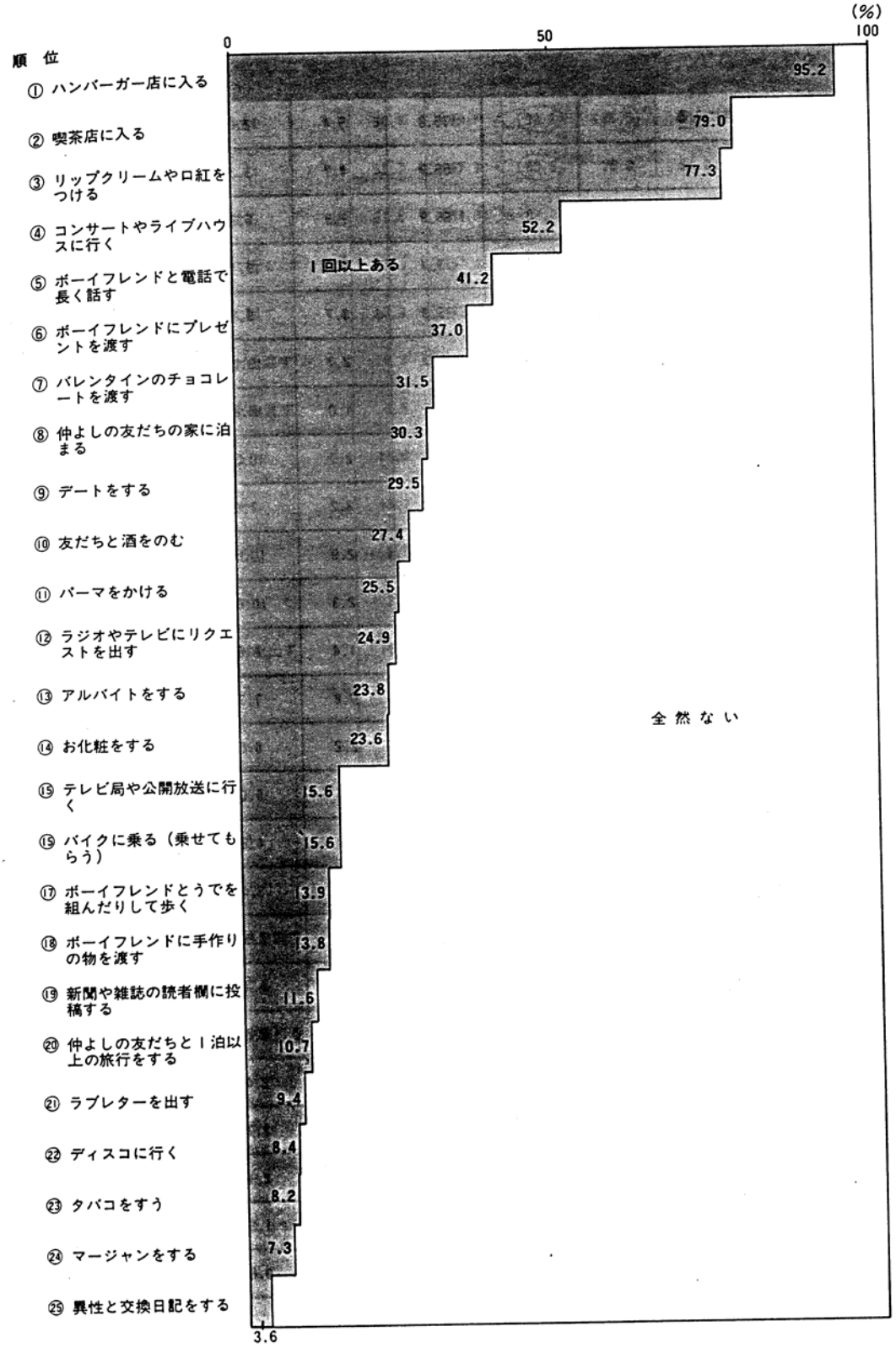
女子高校生全体でみると、世間でいわれているほど、翔んでいる女子高校生の姿は見いだしにくい。そして、むしろリップクリームをつけ、ささやかなおしゃれをして、楽しみといえば、ハンバーガー店か喫茶店に入ることぐらい、というのが、女子高校生の平均的なプロフィールのように思える。堅実なのはよいが、楽しい経験の少ない、プアーな青春を送っていると要約するのはいいすぎなのであろうか。

次に、学年別や学校別によって、行動経験に違いがあるのかをみたのが、**表Ⅰ－2**であり、1回以上の経験率の割合を示してある。

まず学年別にみると、どの項目においても学年が上昇するにつれて、経験率も非常に上昇している。これは、成長とともに、学校の外での経験を増すことにより、女の子から女性へと成長していく準備がなされていくのであろう。この高1と高3との数値の開きをみると、ひとくちに高校生といっても、心の内は子どもとおとなほどの開きがあるのを感じる。

次に、学校別では、近畿D校が他の3校に比べて、どの経験率も高くなっている。近畿D校は、東京に匹敵するほどの大都市であることを考えると、大都市の特性ともいえるし、進学率が低いことを考えると、学校差ともとれるが、ここでは結論を出さず、サンプル数を増して今後さらに検討したい。

図Ⅰ－1　高校生になってからの経験
——リップクリームをつけるくらい——



表Ⅰ－1　高校生になってからの経験

(%)

項目＼尺度	何回もある	4～5回ある	2～3回ある	1回ある	全然ない
① ハンバーガー店に入る	75.0	5.4	12.0	2.8	4.8
② 喫茶店に入る	55.9	4.7	13.3	5.1	21.0
③ リップクリームや口紅をつける	65.9	1.9	6.8	2.7	22.7
④ コンサートやライブハウスに行く	13.7	5.9	19.1	13.5	47.8
⑤ ボーイフレンドと電話で長く話す	25.3	3.7	9.1	3.1	58.8
⑥ ボーイフレンドにプレゼントを渡す	10.7	2.7	13.7	9.9	63.0
⑦ バレンタインのチョコレートを渡す	1.5	1.0	10.8	18.2	68.5
⑧ 仲よしの友だちの家に泊まる	7.6	2.7	10.3	9.7	69.7
⑨ デートをする	13.0	3.2	7.8	5.5	70.5
⑩ 友だちと酒をのむ	6.3	2.9	10.6	7.6	72.6
⑪ パーマをかける	3.5	2.3	10.6	9.1	74.5
⑫ ラジオやテレビにリクエストを出す	8.8	1.4	8.8	5.9	75.1
⑬ アルバイトをする	3.1	0.8	7.7	12.2	76.2
⑭ お化粧をする	8.5	2.2	8.0	4.9	76.4
⑮ テレビ局や公開放送に行く	2.5	0.5	5.0	7.6	84.4
⑯ バイクに乗る（乗せてもらう）	4.3	1.0	4.8	5.5	84.4
⑰ ボーイフレンドとうでを組んだりして歩く	6.9	1.3	3.4	2.3	86.1
⑱ ボーイフレンドに手作りの物を渡す	0.7	0.4	3.5	9.2	86.2
⑲ 新聞や雑誌の読者欄に投稿する	3.3	0.9	4.4	3.0	88.4
⑳ 仲よしの友だちと1泊以上の旅行をする	0.7	0.3	2.6	7.1	89.3
㉑ ラブレターを出す	1.9	0.4	2.4	4.7	90.6
㉒ ディスコに行く	1.7	0.7	2.7	3.3	91.6
㉓ タバコをすう	2.9	0.7	2.1	2.5	91.8
㉔ マージャンをする	2.9	0.7	1.9	1.8	92.7
㉕ 異性と交換日記をする	0.5	0.0	0.6	2.5	96.4

表Ⅰ－2　高校生になってからの経験×学年別・学校別（1回以上の経験率）

——学年が上がるにつれて経験率が増える——

(%)

属性 / 項目	学年 1年	2年	3年	学校 九州A	東海B	北陸C	近畿D
① ハンバーガー店に入る	90.1	96.7	98.2	96.5	91.6	94.7	94.8
② 喫茶店に入る	55.7	87.3	90.8	78.0	84.0	75.9	88.2
③ リップクリームや口紅をつける	61.8	84.8	83.0	69.7	89.1	79.7	91.2
④ コンサートやライブハウスに行く	23.3	57.4	74.0	50.1	46.8	56.3	50.5
⑤ ボーイフレンドと電話で長く話す	27.3	43.2	52.5	39.4	34.5	41.8	50.0
⑥ ボーイフレンドにプレゼントを渡す	19.3	40.5	50.0	34.1	37.7	36.3	48.2
⑦ バレンタインのチョコレートを渡す	5.5	36.0	51.3	32.0	39.3	28.1	35.5
⑧ 仲よしの友だちの家に泊まる	11.0	32.5	46.5	28.1	31.1	29.8	38.6
⑨ デートをする	13.7	30.1	44.9	27.2	21.9	29.9	41.8
⑩ 友だちと酒をのむ	8.8	29.6	43.0	23.4	32.5	28.0	36.4
⑪ パーマをかける	2.5	28.5	44.4	25.7	24.3	24.8	27.9
⑫ ラジオやテレビにリクエストを出す	16.8	27.6	29.7	21.2	26.3	25.3	35.5
⑬ アルバイトをする	3.4	24.0	43.8	19.6	13.9	28.3	30.6
⑭ お化粧をする	9.4	26.7	33.7	18.6	23.1	23.5	40.8
⑮ テレビ局や公開放送に行く	8.1	15.4	23.4	15.5	9.7	15.4	20.4
⑯ バイクに乗る(乗せてもらう)	6.7	14.5	25.8	16.6	7.5	11.5	30.8
⑰ ボーイフレンドとうでを組んだりして歩く	6.4	14.1	21.1	9.4	13.1	13.8	29.9
⑱ ボーイフレンドに手作りの物を渡す	3.9	14.2	23.0	12.7	17.4	12.6	19.2
⑲ 新聞や雑誌の読者欄に投稿する	7.4	14.7	11.8	11.0	15.2	10.8	13.7
⑳ 仲よしの友だちと1泊以上の旅行をする	2.7	11.6	17.3	10.3	12.6	9.6	14.3
㉑ ラブレターを出す	6.6	10.3	10.8	8.1	11.7	9.1	12.9
㉒ ディスコに行く	1.2	6.4	18.0	7.7	10.5	8.0	12.6
㉓ タバコをすう	3.1	8.4	12.8	5.2	10.5	9.4	12.6
㉔ マージャンをする	4.1	7.6	9.8	4.2	10.9	8.3	11.8
㉕ 異性と交換日記をする	3.0	3.9	4.0	3.1	5.0	2.6	8.2

◯＝最大値

——＝最低値

2. 女子高校生のふだんの生活

さらに、女子生徒たちの生活ぶりをみてみよう。図Ⅰ－2は、土・日を除いたふだんの日の生活時間を1日の平均で答えてもらった結果である。一般的に女子生徒たちが、家庭の中で多くの時間を費やしているのは、テレビと勉強で、勉強の場合、2～3時間位が38％と多く、ついで1～1時間半に34％が集中している。またテレビ視聴では、1～1時間半位に41％、2～3時間位37％となっている。その他、1～1時間半位に多く集中しているのは、「音楽をきく」35％、「家族と話をする」35％である。

つまり、家庭での女子生徒は、勉強とテレビを見ることに時間を費やしている。そしてその他として、音楽をきくことと、家族との会話が、余暇のほとんどすべてとなる。

もう少し家庭における生活ぶりをみてみよう。

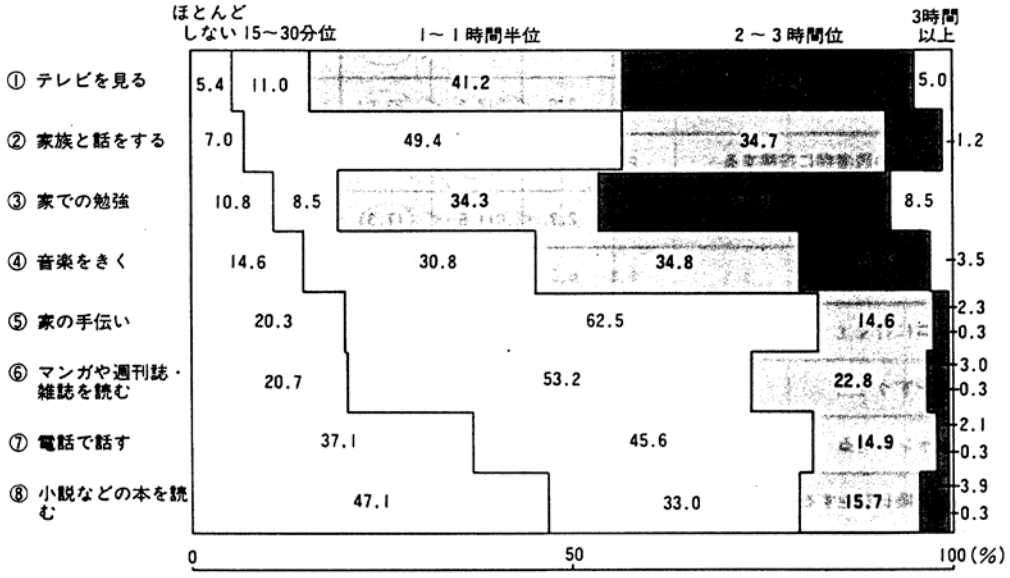
図Ⅰ－3は、項目それぞれが対になっており、「絶対(a)」から「絶対(b)」までの4段階で答えてもらったものについて、反応の偏りが大きい順に示してある。

全体的傾向を「絶対・まあ」をあわせた数値をみながら要約すると、女子生徒たちは、「①朝食を毎朝食べる」87％、というように結構規則正しい生活をしているように思える。また「②食事の時は、学校のことや友だちのことをいろいろ話す」72％と、親たちと会話を持つ生徒も多い。また「親類の人が来た時は、顔を出して話の中に入る」63％というように、社交家ぶりもある。まじめに生活している、よい子の顔がここにも現れている。

次に学校生活について、家庭生活と同様の方法でたずねた結果が、図Ⅰ－4である。

この結果を「絶対・まあ」をあわせた数値に着目して概観すると、「②友だちは多い方」85％であり「③文化祭などは積極的に参加する」70％というように、友だちに恵まれ、学校の行事にも積極的に参加している女子生徒の姿がうかんでくる。そして、世間で問題に

図Ⅰ－2　ふだんの生活時間（土・日を除いた日の平均時間）
――テレビと勉強――

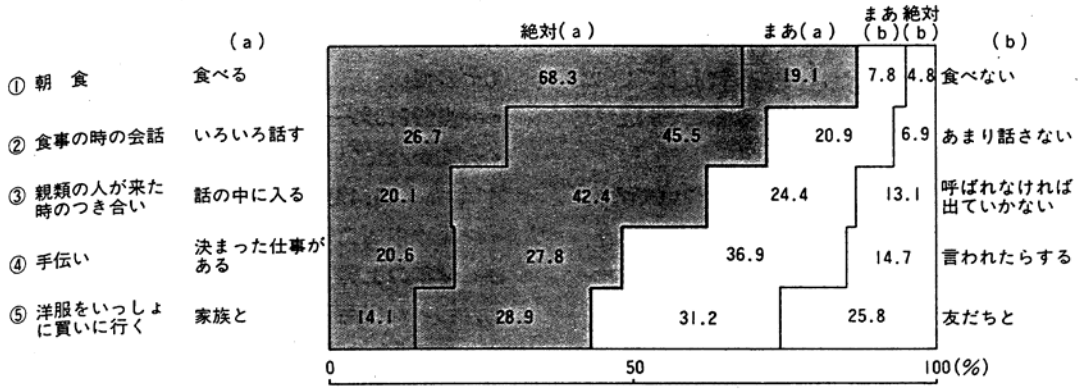


なっているいじめや登校拒否、非行といった暗い影を見いだしにくい感じがする。

もっとも、「④そうじ当番を時々さぼったり、適当にやっている」44%や、「⑦授業中時々おしゃべりや居眠りをする」69%の結果は、女子生徒のまじめさだけではなく、したたかさも表しているようにも思える。

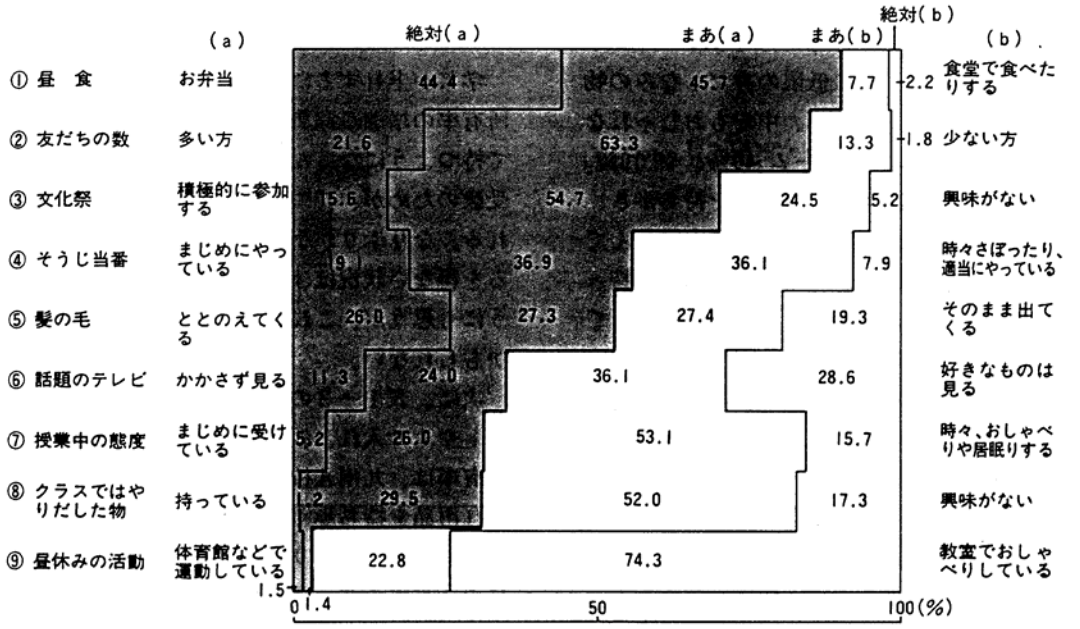
図Ⅰ－3　家庭生活の様子

——親ともよく話す——



図Ⅰ－4　学校生活の様子

——明るい生徒像——



3. 女子高校生の持ち物

これまでふれてきたように、女子高校生たちは、われわれが予想した以上に、地味で、堅実な生活を送っている。そんな彼女らにも何らかの自己主張があっていいはずであろう。若者の自己主張の表れとしては、とりあえず音楽やファッションなどが考えられるが、ここでは、ファッションに関する物として、女子生徒の持ち物についてみてみることにしたい。

まず学校へ持っていく持ち物について考えてみよう。**図Ⅰ－5**は、教科書、ふで入れ、ノートなどの学用品や、リップクリームやヘアブラシなどのおしゃれ用品類の20項目を、毎日学校へ持っていくかをたずねた結果を示している。

女子生徒が学校へ持っていく物のトップは「①ハンカチ」の98%であり、以下「②ノート、③ふで入れ、④教科書、⑤下じき、⑥弁当」が90%台、ついで、「⑦ヘアブラシやくし」72%、「⑧ティッシュペーパー」68%と続いている。女子生徒が毎日持ち歩くカバンの中は、勉強道具と、最低限の身だしなみの物がつまっている。そして、中でもおしゃれな生徒は、「⑩リップクリーム」40%、や「⑪鏡」37%、「⑬香水やコロン」17%、を持ち歩き、授業のあい間にこっそりおしゃれを楽しんでいるようだ。中でも、リップクリームを持っていくかどうかは、おしゃれの境目をなしているように思える。

では学校へ持っていく物は、学年の上昇とともにどのように変化するのであろうか。**表Ⅰ－3**の学年別の欄から、変化の様子をみると、顕著な変化を認めにくい物も多いが、学年の上昇とともに所有率の下がる項目と上がる項目をひろうと、次のようにまとめることができよう。

A　学年の上昇とともに所有率が下がる

①学用品

- ノート（1年；98.9%→2年；96.9%→3年；95.2%）
- ふで入れ（98.1%→96.0%→95.4%）
- 教科書（98.9%→95.8%→94.3%）

②その他

- 弁当（97.3%→95.3%→91.6%）
- あこがれている人の写真（15.4%→12.4%→11.9%）
- マンガ本（9.3%→9.8%→4.7%）

B　学年の上昇とともに所有率が上がる

①おしゃれ用品

- ヘアブラシやくし（66.8%→76.3%→72.9%）
- リップクリーム（26.3%→48.7%→44.0%）
- 鏡（27.5%→39.2%→42.0%）
- 香水やコロン（11.1%→21.0%→17.4%）

②その他

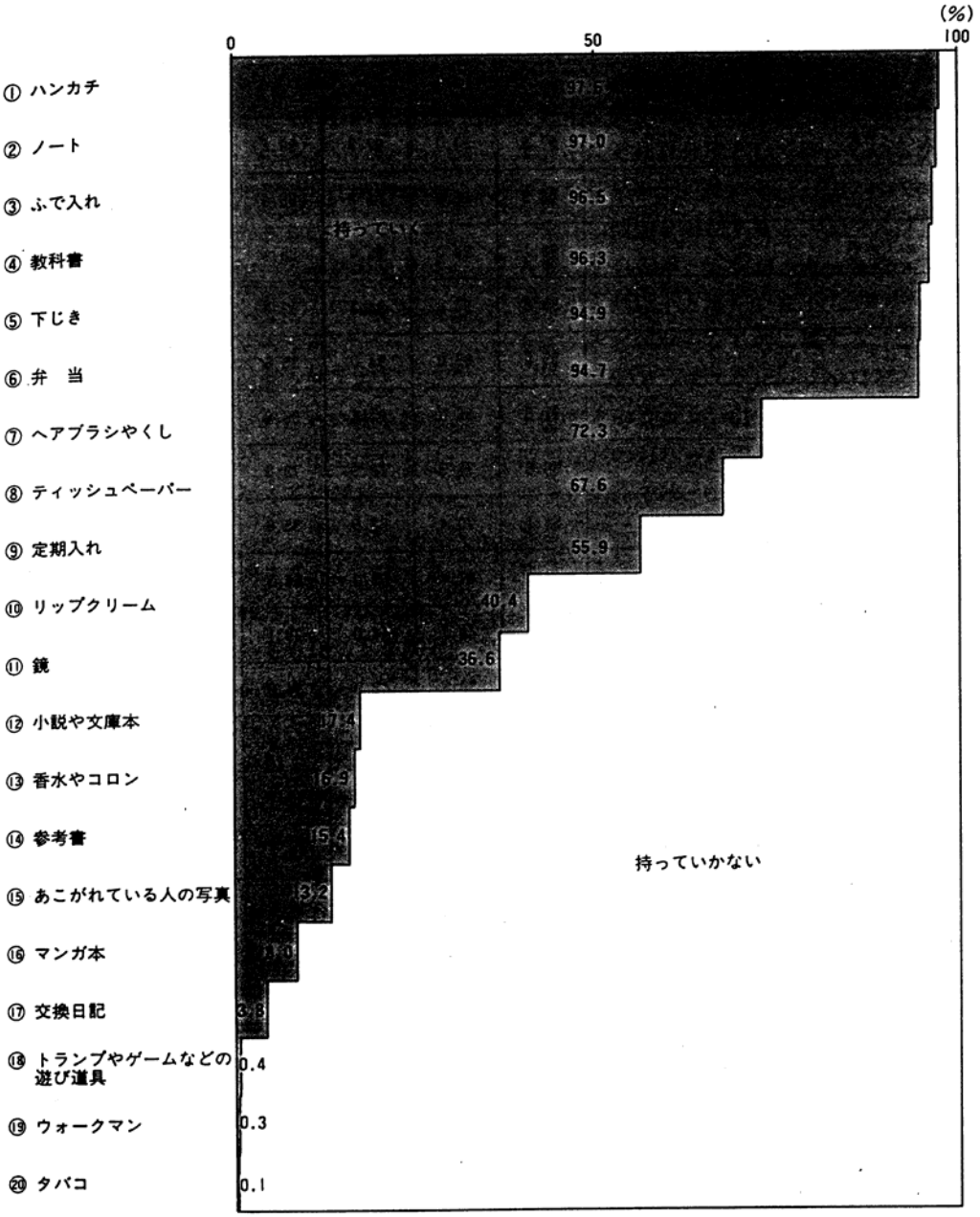
- 小説や文庫本（14.9%→20.3%→16.3%）
- 参考書（15.2%→10.0%→22.4%）

（数値は1・2・3年の順）

学年が上昇するにつれて、おしゃれ用品の所有率の増加が顕著である。ただし、2年生で持つようになった者でも、3年生になると、受験のためか、持つのをやめる者も見受けられる。なりふりかまわず受験戦争に突入せざるを得ない状況は、どこか人間味に欠けるようにも思うが、これもひとつの青春の姿なのかもしれない。

次に、**表Ⅰ－3**の学校別の欄をみると、ノートやふで入れ、教科書といった勉強道具の所有率は、九州A校や東海B校に高く、おしゃれ用品を持ち歩く生徒は、東海B校と近畿D校に多い。つまり進学率の高さは、勉強道具の所有率の高さと関係があり、おしゃれ用品の所有率の高さは、共学校、女子校にかかわらず、大都市といった地域性に関係するようにみえる。

図Ⅰ－5　毎日学校へ持っていく物
——リップクリームがおしゃれの境目——



表Ｉ－３　毎日学校へ持っていく物×学年別・学校別

――学年が上がるとおしゃれに――

(%)

属性 / 項目	学年			学校			
	1年	2年	3年	九州A	東海B	北陸C	近畿D
① ハンカチ	97.9	97.7	97.3	99.2	98.7	96.6	95.1
② ノート	98.9 >	96.9 >	95.2	99.8	98.7	95.8	90.2
③ ふで入れ	98.1 >	96.0 >	95.4	98.1	98.7	95.3	93.2
④ 教科書	98.9 >	95.8 >	94.3	99.8	98.3	94.6	88.3
⑤ 下じき	95.6	95.0	94.0	95.6	98.3	94.7	90.7
⑥ 弁　当	97.3 >	95.3 >	91.6	96.8	97.1	92.5	92.9
⑦ ヘアブラシやくし	66.8 <	76.3 >	72.9	70.5	81.1	69.6	81.7
⑧ ティッシュペーパー	68.1	70.4	63.5	55.6	79.0	73.2	83.3
⑨ 定期入れ	64.2	47.4	58.3	54.5	3.4	61.0	78.4
⑩ リップクリーム	26.3 <	48.7 >	44.0	29.1	65.1	40.7	62.3
⑪ 鏡	27.5 <	39.2 <	42.0	34.0	32.8	31.3	64.5
⑫ 小説や文庫本	14.9 <	20.3 >	16.3	18.9	23.1	13.1	22.1
⑬ 香水やコロン	11.1 <	21.0 >	17.4	15.7	34.9	9.9	31.7
⑭ 参考書	15.2 >	10.0 <	22.4	19.1	8.0	14.0	12.3
⑮ あこがれている人の写真	15.4 >	12.4 >	11.9	10.4	11.3	11.4	29.2
⑯ マンガ本	9.3 ≒	9.8 >	4.7	3.6	19.3	5.8	23.0
⑰ 交換日記	3.9	4.5	3.0	2.0	6.7	3.1	10.7
⑱ トランプやゲームなどの遊び道具	0.3	0.3	0.4	0.4	1.3	0.1	0.5
⑲ ウォークマン	0.1	0.2	0.7	0.1	0.0	0.3	1.4
⑳ タバコ	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0

◯＝最大値

また、学年の上昇に伴い、ボーイフレンドができたり（表Ⅰ－2－⑤参照）、異性の目を気にすることが多くなる。また、おとなの女性に対するあこがれも生じてくるであろう。そうなると、制服姿は変わらなくても、ささやかなおしゃれで自己主張をしていくようになる。こうした形で、彼女たちは人間として、女性としての自立の準備をしていくのであろう。

女子生徒のおしゃれを非行化とは決めつけず、おしゃれもして、デートもして、楽しい高校生時代を過ごすことが、青年期の発達課題を達成することになると考えるのは、現実離れをした夢物語なのであろうか。

さて、十代後半という年齢を考えると、生徒たちが、おしゃれや遊びのための物を持ち歩く方が自然な気がするが、女子生徒たちは、毎日このような物をいくつくらい学校へ持ってきているのであろうか。

結果は**表Ⅰ－4**が示す通りである。1～2個持って学校へ来る者が49%といちばん多い。中には1個も持って来ない者も18%と2割近くを占める。おしゃれ用品などを、たくさん持って来ている生徒よりも、そのような物を全く持って来ない生徒の方がまじめなタイプだと思う反面、女の子としては気がかりな感じがする。

高校の制服は、学校ごとに全員全く同じ物であり、そこには個性の出しようがない。そうした中で、生徒たちがおしゃれをしたり、自己主張できる唯一のものは、個人の持ち物であろう。これまで、学校へ持っていくカバンの中身についてみてきたが、おしゃれな生徒は、カバンの外側に気をつかうと聞く。

表Ⅰ－5は、女子生徒に「カバンにいくつぐらいマスコットやバッジなどの小物をつけているか」たずねた結果である。

半数が「1個以上」の小物をカバンにつけて登下校している。また3つの学年のうちでは小物をつけている率が1年生は低く、2年生がいちばん高い。学校別では、共学校である東海B校がいちばんつけている率が高い。

次に女子生徒が、家庭で持っている物をみてみよう。これは、女子高校生が、どんな物に囲まれて生活しているのかを知る手がかりにもなると考えられる。

表Ⅰ－6は、マスコットや人形などの小物や、ラジカセ、ステレオ、ピアノといった音楽に関する物、リップスティックや化粧水などの化粧品、スポーツ用品など38項目について、それぞれ自分用として持っているかをたずねた結果を示している。

全体の傾向を要約すると、「①マスコットや人形、②自転車、③ラジカセ」を持っている割合が8割以上と高く、女子生徒の持ち物として、ポピュラーなものに属する。ついで多いのは、「④リップスティックや口紅」78%、「⑥香水やコロン」61%、「⑧化粧水や乳液」57%などのおしゃれ用品である。そして、スポーツ用品では、「②バドミントンの道具」44%、「⑥テニスラケット」34%が所有率の高い物である。つまり、スポーツ用品よりもおしゃれ用品を持っている女子生徒が多い。

そして図には示していないが、おしゃれ用品の所有率は、学年の上昇とともに高くなる傾向も得られている。

徐々に、おとなの女性の持ち物を増していく女子生徒たちではあるが、彼女たちは自分の持ち物は自分で選んで買っているのであろうか。

文房具や参考書、ジーンズやトレーナー、レコードなどの15項目について、それらを自分で決めて自由に買っているかどうかをたずねてみた。結果は、**図Ⅰ－6**が示す通り、女子生徒が自分で買っている物のトップは、「①文房具」96%であり、ついで「②マスコットやキーホルダーなどの小物」80%となる。また、6～7割の生徒が自分で買っている物は、「靴下、レコード、洋服、靴、参考書、下着」である。この結果は、現代の女子生徒たちは、結構身のまわりの物は自分で買っているという見方もできるかと思うが、しかし逆の見方をすれば、3～4割の女子生徒は、毎日はく自分の靴下や、自分の勉強に使う参考書でさ

えも、自分で買っていないことにもなる。

ちなみに、女子高校生がもらっている1か月の平均のこづかいは4,760円(モノグラフ・高校生'82vol.5『高校生の校外生活と価値観』による)であることを考えると、高価な物以外は、こづかいの範囲で買えないことはない。そうなるとこづかいの使い道も気になるところではあるが、ここではいまだに親がかりの女子高校生を問題提起するにとどめよう。

また、自分で買っているかどうかを学年別でみたのが、**表Ⅰ－7**であるが、学年の上昇につれて、自分で買うことも緩やかではあるが、増えていることがわかる。

表Ⅰ－4　毎日学校へ持っていく物の数(おしゃれや遊びのための物)*

——平均して1～2個——

(%)

0個	1個	2個	3個	4個	5～10個
17.5	26.3	23.1	18.4	10.4	4.3
	49.4		28.8		

＊　鏡、ヘアブラシやくし、リップクリーム、香水やコロン、ウォークマン、マンガ本、あこがれている人の写真、タバコ、交換日記、トランプやゲームなどの遊び道具

表Ⅰ－5　カバンにつけている小物の数

——つける、つけないが半々——

(%)

属性＼尺度		0個	1個	2個	3個	4個以上
全体		51.0	28.7	12.6	4.7	3.1
学年	1年	56.6	28.2	10.7	3.3	1.2
	2年	45.7	27.8	15.1	6.2	5.2
	3年	52.0	30.2	11.3	4.3	2.2
学校	高校A	72.4	21.6	4.6	1.0	0.4
	高校B	19.7	26.7	24.3	12.6	16.7
	高校C	35.2	35.9	18.3	7.2	3.4
	高校D	48.3	30.9	13.9	4.4	2.5

表Ⅰ－6　自分用として持っている物

——ラジカセ、口紅、ドライヤー——

(%)

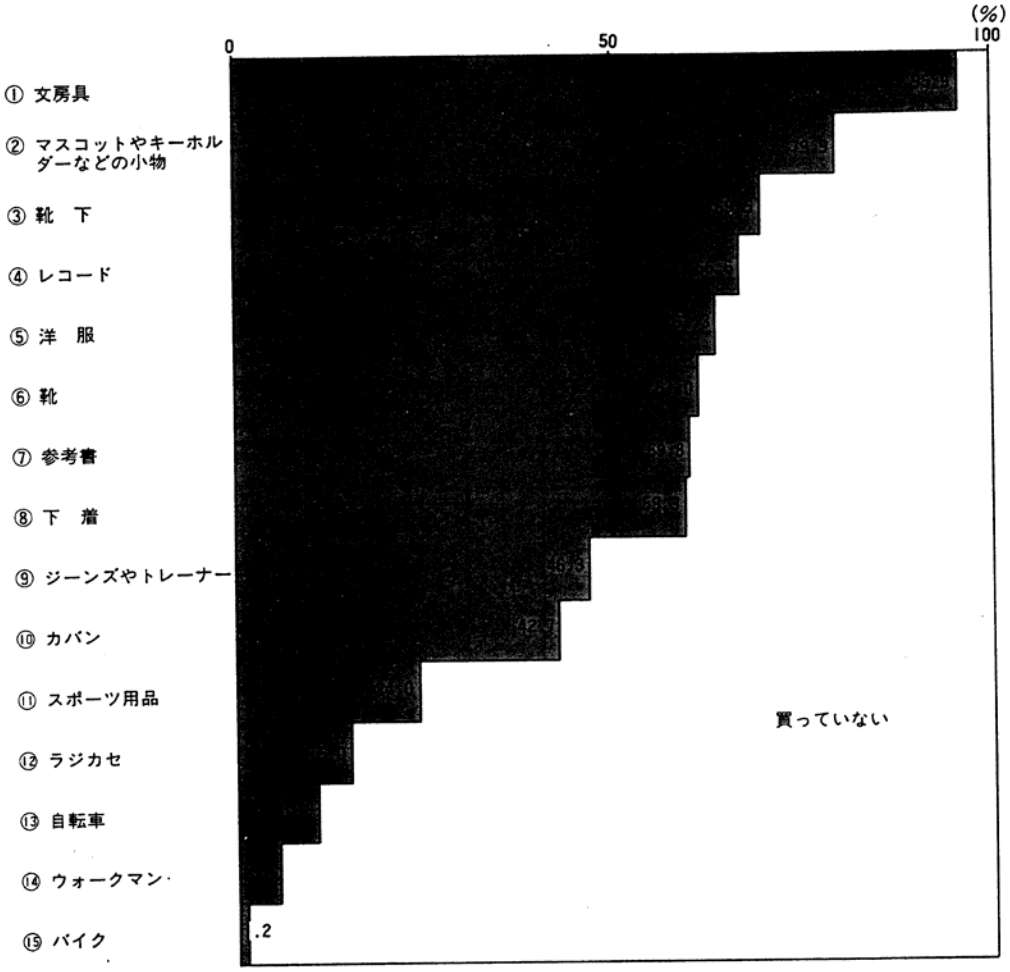
項　　目	持っている
① マスコットや人形	86.7
② 自転車	81.7
③ ラジカセ	80.0
④ リップスティックや口紅	77.8
⑤ ハンドバッグ	62.5
⑥ 香水やコロン	60.9
⑦ ベッド	60.7
⑧ 化粧水や乳液	57.4
⑨ ドライヤー	55.4
⑩ ピアノまたはオルガン	52.6
⑪ ラジオ	49.9
⑫ バドミントンの道具	43.8
⑬ 百科事典類	41.1
⑭ マニキュア	37.7
⑮ ヘアクリームなど	36.4
⑯ テニスラケット	34.3
⑰ ステレオ	33.6
⑱ カメラ	25.1
⑲ 電　卓	23.7

(%)

項　　目	持っている
⑳ アイラッシュカーラー*	17.6
㉑ アイシャドウ	16.8
㉒ スキーの道具	14.9
㉓ ファンデーションやおしろい	14.7
㉔ ギター	14.5
㉕ 文学全集	14.2
㉖ ウォークマン	14.1
㉗ テレビ	14.0
㉘ ローラースケートの靴	10.4
㉙ 顕微鏡や天体望遠鏡	8.5
㉚ 電気カミソリ	4.9
㉛ タイプライター	4.1
㉜ パソコン(マイコン)	2.0
㉝ バイク	1.9
㉞ 皮ジャン	1.5
㉟ アイススケートの靴	1.4
㊱ スケートボード	1.3
㊲ 毛皮のコート	0.8
㊳ サーフィンボード	0.2

(注) ＊ アイラッシュカーラー：まつ毛をカールするもの

図Ⅰ－6　女子高校生が自分で決めて買っている物
——大半は自分で買う——



表Ⅰ－7　女子高校生が自分で決めて買っている物×学年別

——学年が上がると自分で買うようになる——

(%)

項目＼属性	1年		2年		3年
① 文房具	96.2	≒	95.6	≒	96.0
② マスコットやキーホルダーなどの小物	84.1	＞	80.3	＞	75.3
③ 靴　下	63.9	＜	71.4	≒	72.7
④ レコード	63.2	＜	69.0	＞	66.9
⑤ 洋　服	55.1	＜	64.6	＜	69.6
⑥ 靴	53.9	＜	62.3	＜	66.5
⑦ 参考書	56.0	≒	56.2	＜	68.0
⑧ 下　着	53.9	＜	62.1	≒	61.1
⑨ ジーンズやトレーナー	40.0	＜	46.4	＜	52.4
⑩ カバン	36.1	＜	45.3	＜	46.1
⑪ スポーツ用品	23.5	＜	26.3	＞	21.6
⑫ ラジカセ	14.6	＜	16.6	＞	13.3
⑬ 自転車	10.6	＜	13.9	＞	7.4
⑭ ウォークマン	4.5	＜	6.1	＞	4.4
⑮ バイク	0.8	＜	1.0	＜	1.8

第II章 女子高校生の意識

1．高校生のしていること

これまでふれてきたように、現代の女子高校生たちは、マスコミが報じるような極端な逸脱行動をする者は少なく、地味で、決められた枠の中で堅実に暮らしている生徒が圧倒的に多いように思える。そうなると若者らしい特徴をどこかに求めたくなる。

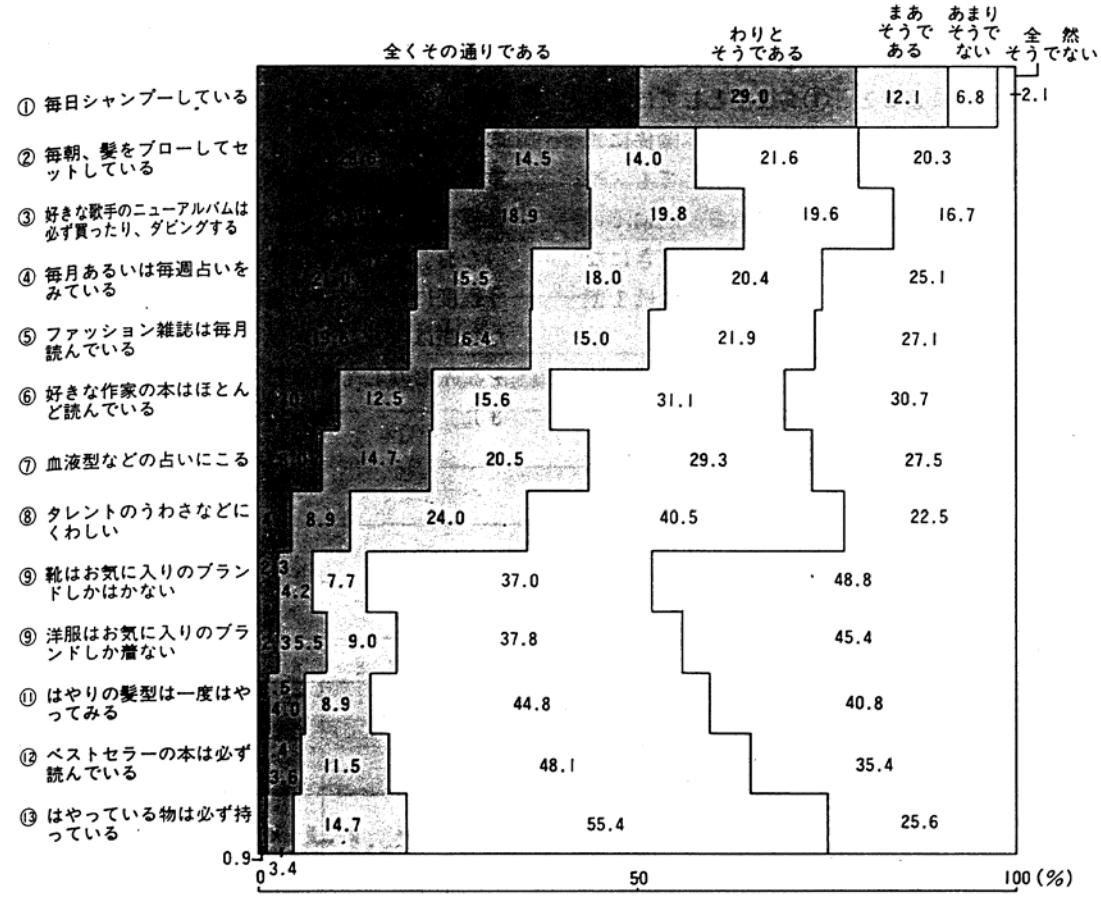
そこで女子生徒たちに、音楽やファッションなどの感度をたずねることによって、女子高校生像を明らかにしたい。

図II－Jに目を向けよう。これは生徒たちのしていることをたずねたものだが、ベスト5までを、「まあそうである」まで含めた数値に着目してあげてみると、「①毎日シャンプーしている」91%、「②毎朝、髪をセットしている」58%、「③好きな歌手のニューアルバムは必ず買ったり、ダビングする」64%、「④毎月あるいは毎週占いをみている」55%、「⑤ファッション雑誌は毎月読んでいる」51%となる。

女子生徒は、毎朝髪をセットするなど、彼女らなりのおしゃれをしていることがわかる。また、『モノグラフ・高校生'85 vol. 15 高校生と情報行動』の中で、好きな音楽をこまめにダビングしたりする"音楽高感度人間"の存在が指摘されたが、この図でもそうした姿が認められる一方、ファッションにも高い感度を示している。ただ、ファッションに関して多くの生徒は、ファッション雑誌を毎月読むなどして情報は入手しているものの、「⑨靴

はお気に入りのブランドしかはかない」「⑨洋服はお気に入りのブランドしか着ない」などのように、ファッションにこったり、ブランド志向するなどのファッション性を行動のレベルに生かす生徒は、「まあ」まで含めても、15%前後と少ない。

図II－1　女子高校生のしていること
――ダビングと占い――



2. 女子高校生の性意識

次に、少し角度を変えて、女子生徒たちの性と恋愛についての意識をみてみることにする。高校生くらいになると、性の問題は異性に対する関心の増大を背景として、無視できない問題となる。それでは、女子生徒たちはどんな性意識を持っているのであろうか。

表II－1によると、「①高校生としては、どんなに相手を好きになっても、肉体関係にまでは進まない方が望ましい」を「とても・やや賛成」と答えた者は61％である。逆にその意見に対して反対とする者、つまり好きになった相手との深い関係を肯定する者は約1割である。

この1割を多いとみるかどうかは、微妙なものを含んでいるが、この表のその他の結果を視野へ入れると、肉体関係に進むのもやむをえないと思う生徒が1割強、反対が5割、ゆれ動く層が3～4割の感じである。

したがって、このゆれ動く層の動向によって、今後の性意識の展開が異なってこよう。つまり、浮動層が、仮に性の解放に賛成するようになれば、欧米などの高校生とさほど変わらない数値となる。したがって、微妙なものを含みながらも、今のところ、堅実さや慎重さが主流を占めているのが、女子高校生の世界なのであろう。

なお、**表II－2**によれば、性の知識をふつう程度に持っている者が6割を占め、そうした知識は、友だちと話したり、雑誌や週刊誌を読んだりして手にしているという（**表II－3**）。

表II－1　性に関する意識

——「肉体関係に進むのもやむをえない」が1割——

(%)

項目＼尺度	とても賛成	やや賛成	半分半分	やや反対	とても反対
① 高校生としてはどんなに相手が好きになっても肉体関係まで進まない方がよい	39.2	21.6	29.3	7.3	2.6
	60.8			9.9	
② 結婚するまでは肉体関係まで進まない方がよい	28.1	22.9	35.4	9.3	4.3
	51.0			13.6	
③ 好きになる人と結婚する人とは必ずしも同じでなくてもよい	12.7	17.2	39.8	17.2	13.1
	29.9			30.3	

表II－2　性関係の知識度

――ふつうが6割――

(%)

とても くわしい	まあ くわしい	ふつう	あまり くわしくない	全然 くわしくない
4.3	14.9	63.3	13.4	4.1
19.2			17.5	

表II－3　性関係の知識源

――友だちと雑誌――

(%)

項目	割合
① 友だち	86.6
② 雑誌や週刊誌	72.9
③ 保健体育などの授業	50.3
④ テレビ	23.4
⑤ ラジオ	16.6
⑥ 先　輩	8.9
⑦ 親	6.7
⑧ きょうだい	2.9

3. 女の子としてのしつけ

性の問題は、女子教育の中でひとつの重要なアングルであっても、それ以上のものではない。女性として、どういうしつけを受けてきたのかが、性に関する意識を規定するのはいうまでもあるまい。

そこで、母親からいつも言われていることを示すと、**表II－4**の通りとなる。さすがに、「女の子は勉強はほどほどでよい」や「女の子の幸せは結婚にある」などと言う母親は決して多くはない。しかし、「女の子らしく手伝いくらいはしなさい」と言う親は多い。女の子であることにそれほどこだわる必要はないが、無視もできない。女らしさを、ほどほどに意識した妥当なしつけのような印象を受ける。

女の子らしさの形成を性的な社会化とよぶ。そして、性的な社会化は、どんな遊びをするかや、どんな習いごとをするかなどに具体化されている場合が多い。そこで、習いごとについてのデータを示すと、**表II－5**以下の通り

となる。「現在も習っている」の24%を含めると、94%の生徒が何かを習っており、具体的には習字、ピアノ、そろばんが上位3位までを独占している（**表II－6**）。

もっとも、習いごとの大半は、**表II－7**のように、アマチュアのレベルで、それ以上の者は、ほとんど認められない。身だしなみ程度に、ピアノもひけるし、字を書けるというのが習いごとのレベルなのであろう。ここらにも、ほどほどの女らしさを求めているしつけという感じがする。

女の子であることを無視もしないが、そうかといって、強制もしないという扱いで、性的なしつけとしては妥当なものであろう。

そうした事情を反映して、「生まれかわるとしたら」の問いに対して、6割の生徒が、女性に生まれかわりたいと答えている（**図II－2**）。この「生まれかわり」は、女性らしさを受容しているかどうかを、占う目安といわれてきた。つまり、女性としての生まれかわりを希望する者は、女性であることを肯定している。そして、それは、女性が住みやすい社会になると、肯定する者の割合が増加するともいわれている。

そうした意味で、図II－2は、日本も欧米なみに、女性たちが住みやすい社会になったことを暗示しているように思われてならない。

なお、**図II－3**によると、異性にもてないと思っている生徒が8割を超えるが、彼女らの青春はこれから始まるのであろうから、ここでは、データを紹介するにとどめる。

表II－4　お母さんからいつも言われていること

——せめて女の子らしく手伝いぐらいはしなさい——

(%)

項目＼尺度	いつも	かなり	あまり	全く
	言う		言わない	
① 女の子なのだから、家事も手伝いなさい	35.9	41.2	19.6	3.3
	77.1		22.9	
② 女の子らしい言葉づかいをしなさい	24.0	30.9	34.7	10.4
	54.9		45.1	
③ これからは、女の人も手に職を持たなければいけない	23.0	30.5	31.4	15.1
	53.5		46.5	
④ 一人でも生きていけるようにならなければいけない	16.0	19.8	40.8	23.4
	35.8		64.2	
⑤ 女の子は幸せな結婚をするのが一番よい	11.5	18.0	42.7	27.8
	29.5		70.5	
⑥ 女の子は人にかわいがられるようになりなさい	9.8	15.6	46.6	28.0
	25.4		74.6	
⑦ 女の子は女の子らしく、勉強はほどほどでよい	2.7	7.8	44.8	44.7
	10.5		89.5	

表II－5　習いごとをしていたか

——何かを習っている——

(%)

<table>
<tr><th rowspan="2">全然
していない</th><th>小学校の
低学年まで
していた</th><th>小学校の
高学年まで
していた</th><th>中学1～2年
までしていた</th><th>中学3年
までしていた</th><th rowspan="2">現在も
している</th></tr>
<tr><td>5.1</td><td>25.5</td><td>19.1</td><td>19.8</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6.3</td><td colspan="2">30.6</td><td colspan="2">38.9</td><td rowspan="2">24.2</td></tr>
</table>

表II－6　習いごとの経験

——習字とピアノ——

(%)

項目＼尺度	習った	習っていない
① 習　字	73.4	26.6
② ピアノやエレクトーン	70.1	29.9
③ そろばん	54.1	45.9
④ 水泳	17.1	82.9
⑤ 英会話	14.1	85.9
⑥ 茶　道	8.6	91.4
⑦ テニス	7.4	92.6
⑧ バレエ	5.5	94.5
⑨ 華　道	5.4	94.6
⑩ バイオリンやギター	3.3	96.7

表II－7　習いごとの腕前

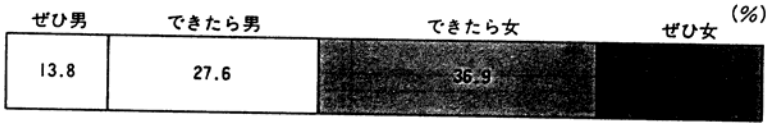
——アマチュアのレベル——

(%)

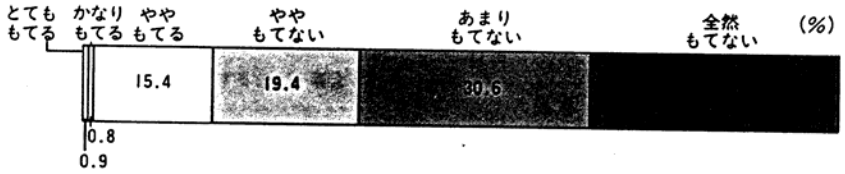
項目＼尺度	プロになるくらいの腕前	アマチュアとしてはうまい方	アマチュアとしてはふつうくらい	習ったことをほとんど忘れた
① 習字	0.3	13.1	60.0	26.6
② ピアノやエレクトーン	0.3	6.9	57.5	35.3
③ そろばん	0.5	11.2	48.8	39.5
④ 水泳	0.8	14.1	54.2	30.9
⑤ 英会話	0.0	4.8	49.9	45.3
⑥ 茶道	0.0	6.2	55.9	37.9
⑦ テニス	0.0	8.9	68.2	22.9
⑧ バレエ	1.3	5.8	38.3	54.6
⑨ 華道	2.0	10.0	56.9	31.1
⑩ バイオリンやギター	0.0	2.0	58.4	39.6

図II－2　生まれかわるとしたら

——女性が6割——



図II－3　異性にもてるか



4. 高校生活の楽しさ

ここらで、もう一度生徒たちの現実の姿へ戻ろう。**表II－8**は、「あなたの高校生活は楽しいですか」とたずねた結果である。

「とても・かなり楽しい」と感じている女子生徒は22%であり、「まあ」を含めると57%の者が楽しいと答えている。逆に、楽しくないと答えている者も18%に達する。大学受験を控えた生徒たちを考えると妥当な数値かもしれない。しかし半数の生徒しか楽しいと答えられないのは、胸の痛む思いもし、何とか青春を楽しいものにしてやりたい気持ちがする。どうすれば高校生活が楽しくなるのか気になるところではあるが、まずどんな生徒が、学校を楽しいと答えているのかをみてみよう。

部活動の状況との関連でみたのが、**図II－4**である。

数値は、「とても・かなり・まあ楽しい」と答えた者の数値のみを示しているが、運動部、文化部に関係なく、部活動を熱心にやっている女子生徒が、65%という高数値で楽しいと答えている。また、運動部であっても、熱心にやっていない者(36%)は、かえって一度も部に所属しない者(48%)よりも、高校生活を楽しいと答えているパーセントが低い。

次に**図II－5**は、卒業後の進路との関連でみたものであるが、むずかしい4年制大学を志向している女子生徒は、他のコースを志向している者よりも、やや高校生活を楽しいと肯定している。

このように、部活動に熱中していたり、難関である4年制大学を目指している女子生徒たちが、高校生活を楽しいと感じている。何かしら打ち込む対象を持っていることが、学校を楽しいと感じさせるのであろう。そこでさらに具体的に、友だちや勉強、部活動、学校の制度など11項目をあげ、「次のようなことができたら、もっと高校生活が楽しくなると思いますか」と直接的にたずねてみた。

表II－9から、「とても・かなり楽しくなる」に着目しながら、全体の傾向を要約すると、「①なんでも話し合える友だちができたら」80%や「⑤ボーイフレンドができたら」52%、と異性も含めて友だち関係の充足への願いが強い。ついで「③勉強がもっとできるようになったら」68%、「②授業が午前中で終われば」79%の2項目から、勉強に対する満足感が、高校生活の楽しさに関連を示している。特に、授業が午前中で終わればよいと思うのは、一見、学校から解放されたいという自由を求めた声ともとれるが、そのわりに、他の規則や制服の廃止を望む声が低いことを考え合わせると、授業がつまらない、勉強がわからないといった気持ちの表れととってもよいように思われる。そして「④運動部で活躍できたら」53%からは、生徒たちが、スポーツ選手に対するあこがれや羨望のまなざしを注いでいる様子がうかがえよう。

つまり、友だち関係を充足することや、勉強やスポーツの面で自信を持つことが、高校生活を楽しくする鍵になるのであろう。

表II－8　高校生活の楽しさ

(%)

とても楽しい	かなり楽しい	まあ楽しい	ふつう	まあ楽しくない	あまり楽しくない	全然楽しくない
10.6	11.5	34.4	25.6	5.4	7.6	4.9
22.1					12.5	

次に、現在の生活を楽しいと感じている生徒とそうでない生徒で、高校生活を楽しくする要因に違いがあるのかをみたのが、図II－6である。

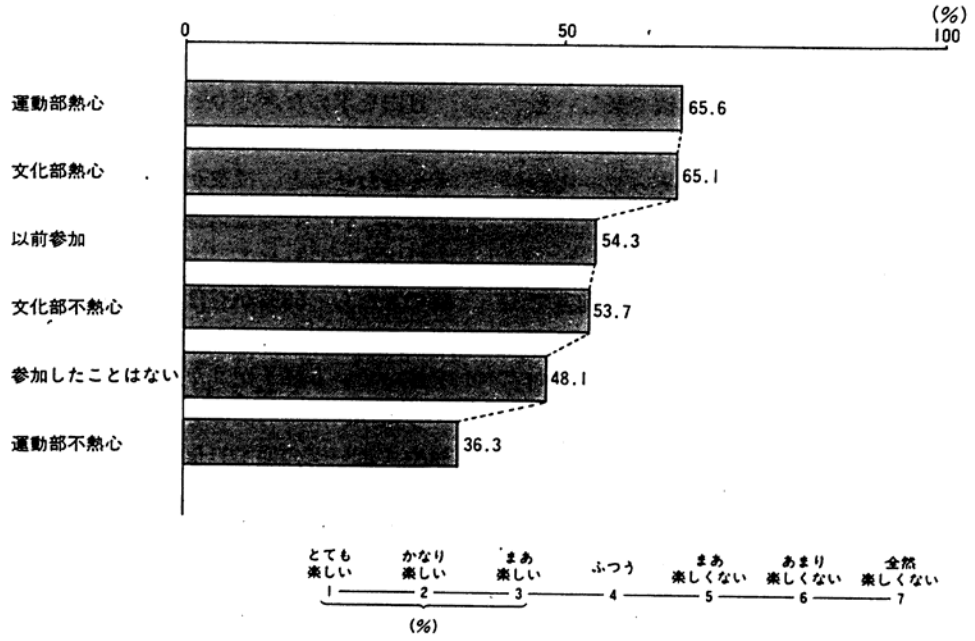
図は、高校生活を「とても・かなり楽しい」と答えた生徒たち22%をエンジョイ群とし、「まあ・あまり・全然楽しくない」と答えた18%をグレー群として、クロス集計した結果である。

差の開いている項目をひろってみよう。エンジョイ群は、「①なんでも話し合える友だちができたら」「③勉強がもっとできるようになったら」「④運動部で活躍できたら」「⑩文化部で活躍できたら」、今の生活が「とても・かなり楽しくなる」と答えている。それに対して、グレー群の期待が大きいのは、「⑦男女共学になったら」であり、以下顕著な差ではないが、「②授業が午前中で終われば」「⑧学校の規則がなくなれば」となる。

つまり、現在の生活をエンジョイしている女子生徒たちは、自己の向上によって楽しさが得られると思っているのに対して、グレーに暮らしている女子生徒は、学校の制度的なことなど、環境の変化に期待している。またグレーの女子生徒たちの、自己に対する自信のなさや、どこか冷めたところは気がかりである。

それと同じように、**表II－10**では、部活動に熱心な生徒は意欲をもやし、そうした意欲が充たされれば、学校がより楽しくなると思っているのに対し、部を怠けぎみの生徒は、無気力で、まわりが変わればすこし楽しくなると、他者依存的なイメージを抱いているの

図II－4　部活動の状況×高校生活の楽しさ



がわかる。

それでは現代の女子高校生たちは、どんな生徒にあこがれ、自分もそうなりたいと望んでいるのであろうか。女子高校生の求める自我像を図II－7に示した。

「なんとも思わない」というしらけた層が結構多いことは気になるところではあるが、とりあえず、「ぜひ・できれば自分もなってみたい」ベスト5をみよう。

①成績がトップの生徒　65%

②運動部の活動に熱中している生徒　62%

③バンドを組んだりして音楽活動をしている生徒　52%

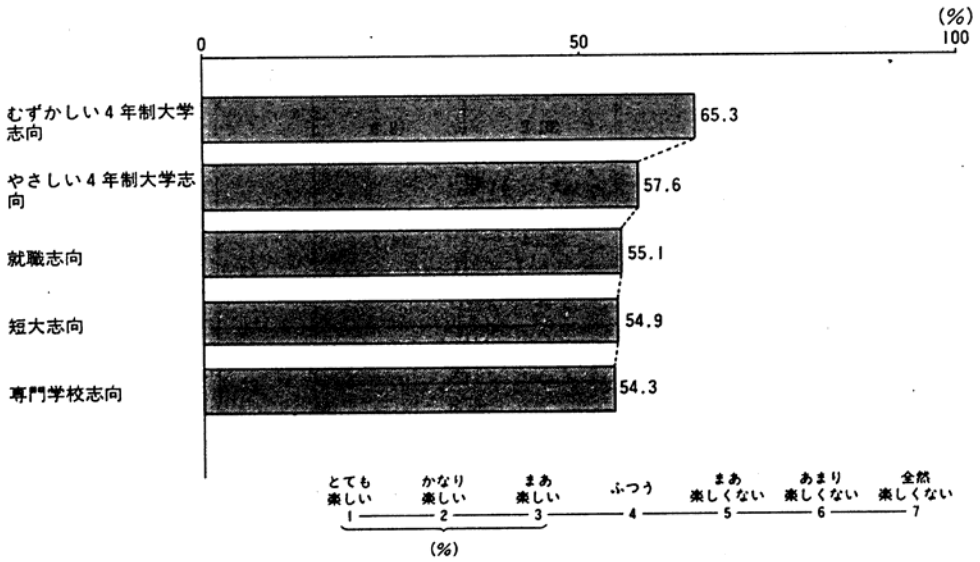
④音楽やファッションなどにくわしい生徒　46%

⑤先生から信頼されている生徒　43%

とかく、われわれは、学力のみに価値を置き、生徒を学力という尺度だけで評価してしまい、その生徒の持つさまざまな側面を見逃しがちである。しかし女子生徒たちは、学力にはもちろん価値を置いているが、スポーツや音楽、ファッションと、多様な価値観を持っているようである。

今度は逆に、なりたくない生徒のベスト5を見ると、「⑪規則をしっかり守っている」とか「⑫クラス委員や生徒会長」などの大まじめな生徒はいやだが、「⑬少しツッパっているがカッコいい」や「⑭お化粧している」「⑮『たけのこ族』のような」などの、学校の規則から逸脱した行き過ぎた生徒にも、魅力を感じてはいないという結果が得られている。

図II－5　進路×高校生活の楽しさ



表II－9　高校生活を楽しくする要因
——友だちが欲しい——

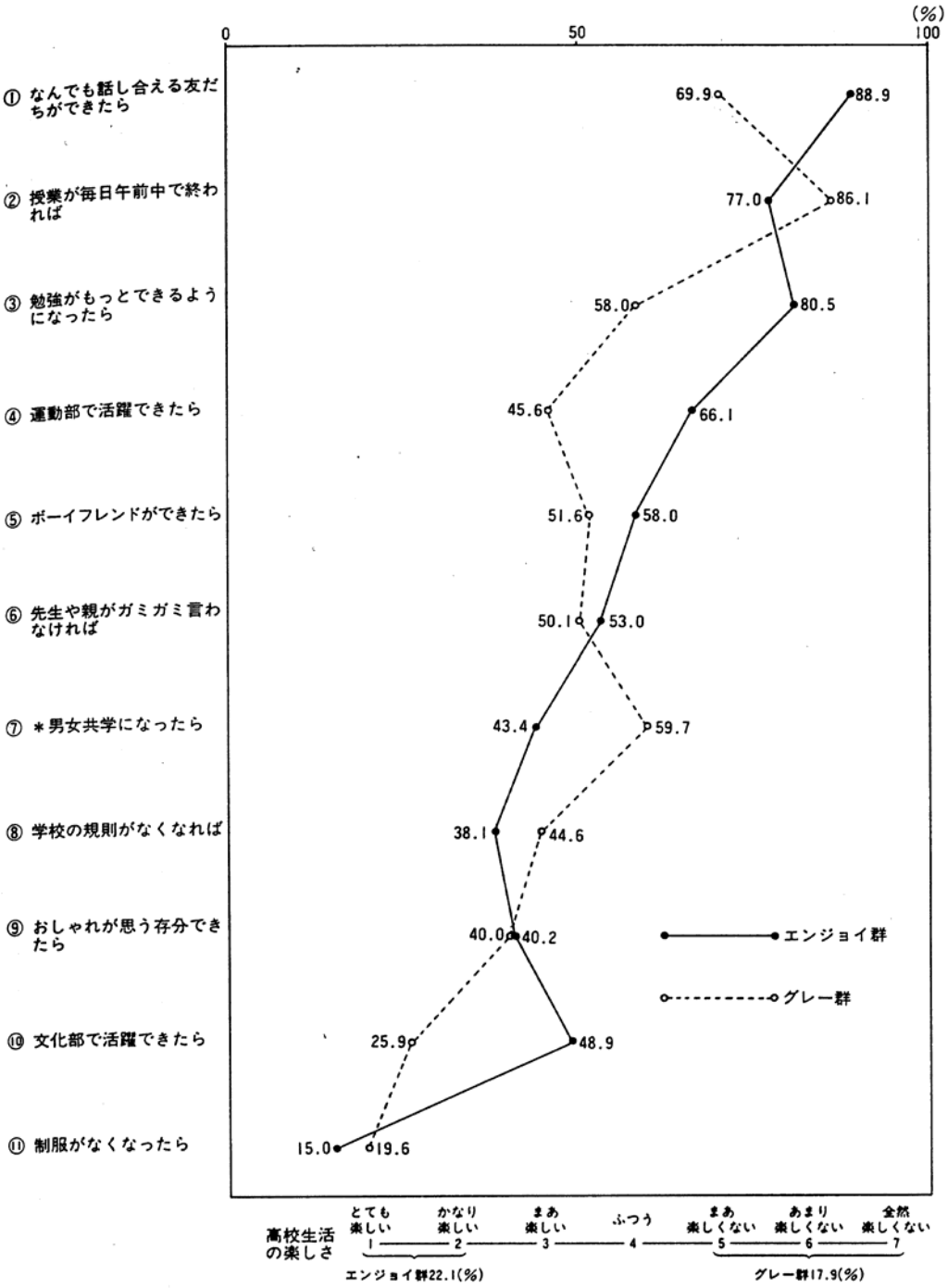
(%)

項目＼尺度	とても楽しくなる	かなり楽しくなる	まあまあ楽しくなる	変わらない
① なんでも話し合える友だちができたら	58.3	21.2	12.4	8.1
	79.5			
② 授業が毎日午前中で終われば	61.9	17.2	11.3	9.6
	79.1			
③ 勉強がもっとできるようになったら	39.0	28.9	22.1	10.0
	67.9			
④ 運動部で活躍できたら	28.0	24.8	24.9	22.3
	52.8			
⑤ ボーイフレンドができたら	30.0	21.6	32.5	15.9
	51.6			
⑥ 先生や親がガミガミ言わなければ	30.3	19.3	24.0	26.4
	49.6			
⑦＊男女共学になったら	30.2	18.9	26.6	24.3
	49.1			
⑧ 学校の規則がなくなれば	25.4	14.7	24.7	35.2
	40.1			
⑨ おしゃれが思う存分できたら	23.0	15.9	24.2	36.9
	38.9			
⑩ 文化部で活躍できたら	17.4	17.6	30.9	34.1
	35.0			
⑪ 制服がなくなったら	9.0	7.4	19.0	64.6
	16.4			

＊女子高校の生徒のみ回答

図II－6　高校生活の楽しさ×高校生活を楽しくする要因

——学校に充足している生徒は意欲的——



表II－10　部活動の状況×高校生活を楽しくする要因

――部に熱心な生徒は意欲的――

(%)

属性 / 項目	運動部熱心	文化部熱心	運動部不熱心	文化部不熱心	参加したことはない	以前参加
① なんでも話し合える友だちができたら	81.3	(83.3)	78.4	78.8	76.8	77.2
② 授業が毎日午前中で終われば	77.8	72.3	(85.0)	82.7	84.2	78.8
③ 勉強がもっとできるようになったら	(71.7)	67.7	67.1	65.8	63.9	69.1
④ 運動部で活躍できたら	(74.8)	48.5	51.5	46.4	43.2	50.1
⑤ ボーイフレンドができたら	58.7	47.8	(61.3)	53.6	47.0	47.3
⑥ 先生や親がガミガミ言わなければ	51.1	45.5	(56.3)	52.5	51.4	46.9
⑦ ＊男女共学になったら	52.2	45.3	(64.8)	50.4	48.0	46.8
⑧ 学校の規則がなくなれば	40.1	34.5	(51.2)	46.9	41.0	36.1
⑨ おしゃれが思う存分できたら	37.7	33.8	(44.0)	41.8	41.5	39.8
⑩ 文化部で活躍できたら	29.8	(54.8)	24.7	35.1	24.1	29.8
⑪ 制服がなくなったら	14.5	13.7	19.3	17.4	(21.7)	16.1

＊女子高校の生徒のみの回答

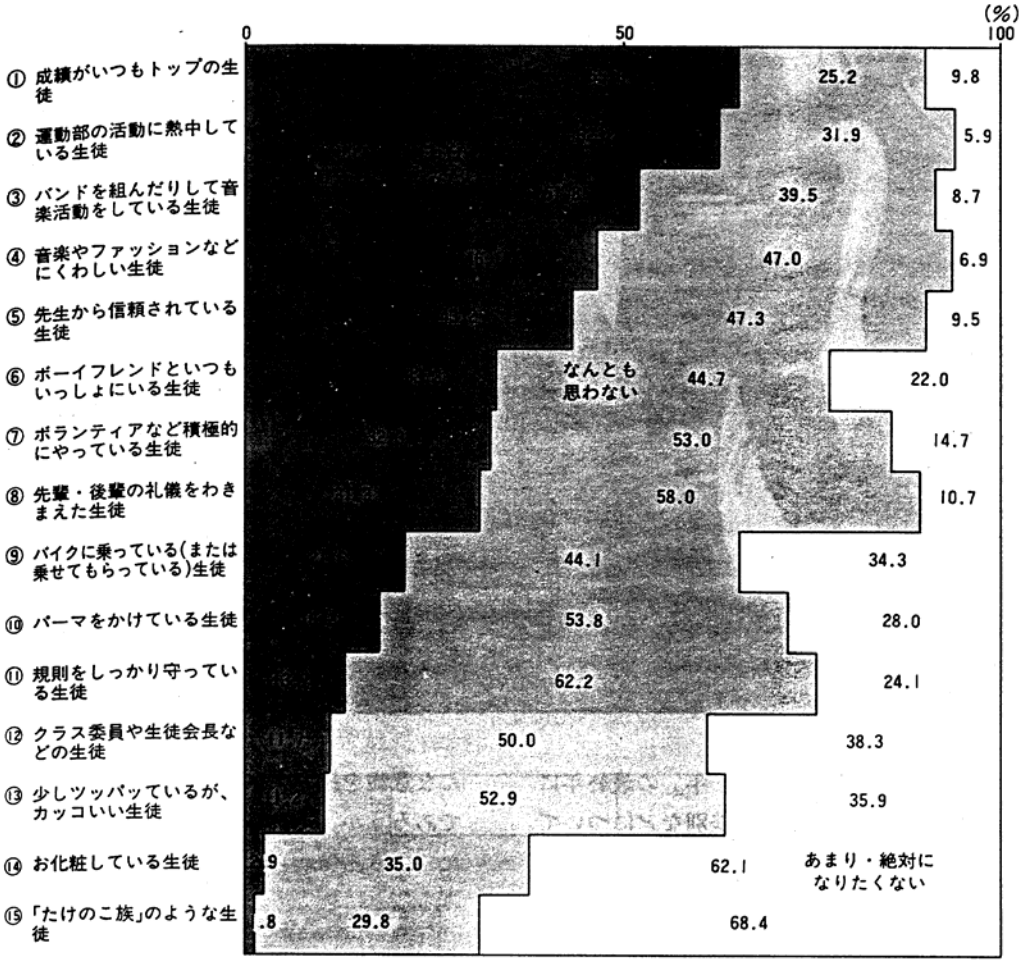
とても楽しくなる 1 ―― かなり楽しくなる 2 ―― まあ楽しくなる 3 ―― 変わらない 4

(%)

◯＝1位

〰＝2位

図II－7　女子高校生の求める自我像
——勉強とスポーツも——



第III章　女子高校生の抱く未来像

昭和60年は「国連婦人の十年」の最終年に当たり、女性の地位や男女差別などについて、さまざまな角度から論議を呼んでいるが、女性の生活はこれから先変わるのであろうか。そして21世紀の社会における女性たちは、どんな意識を持ち、どんな生き方をしていくのであろうか。そこで21世紀を担う女子高校生たちの未来像から、新しい女性像を推測してみることにしよう。

1．女子高校生の将来設計

今、少女である女子高校生たちも、これから10年の間には結婚して妻となり、子を持つ母親となり、21世紀に突入する頃には30歳代を迎えることになる。それでは、自分の将来にどのような展望を抱いているのであろうか。

結果は図III－1の通りであるが、女子生徒たちの見通しは明るいとはいえない。「やや可能」の評価は微妙であるが、「たぶん・絶対可能」に限定してみると、「大学へ入学できたら、充実した学生生活を送れる」43%、「結婚後、幸せな家庭生活を送れる」51%、「良い子どもに恵まれる」46%となる。職場では自分の力を発揮できそうもないが、家庭生活なら幸せをつかめそうだという見方である。

女子生徒たちは、職業生活には暗い見通しを抱いているが、どのような職業につきたい

と考えているのであろうか。

いくつかの条件の異なる仕事を提示して、その仕事につきたいかどうかをたずねた結果が、**図Ⅲ－2**である。「やや」も含めて、「①自分の個性は生かせるが、とても疲れる仕事」につきたい者は70%、「②自分の個性を生かせるが、収入の少ない仕事」60%と、つきたい仕事の第一条件は、自分の個性を発揮できることであるらしい。

それでは、女子高校生たちはどのような生活に価値を置いているのであろうか。

表Ⅲ－1は、女子生徒にAとB、それぞれ2通りの生活のしかたを提示し、どちらの人生を送りたいのか選んでもらった結果を、偏りの大きい順に示した。そして置かれている価値に着目して以下の通りに要約してみた。

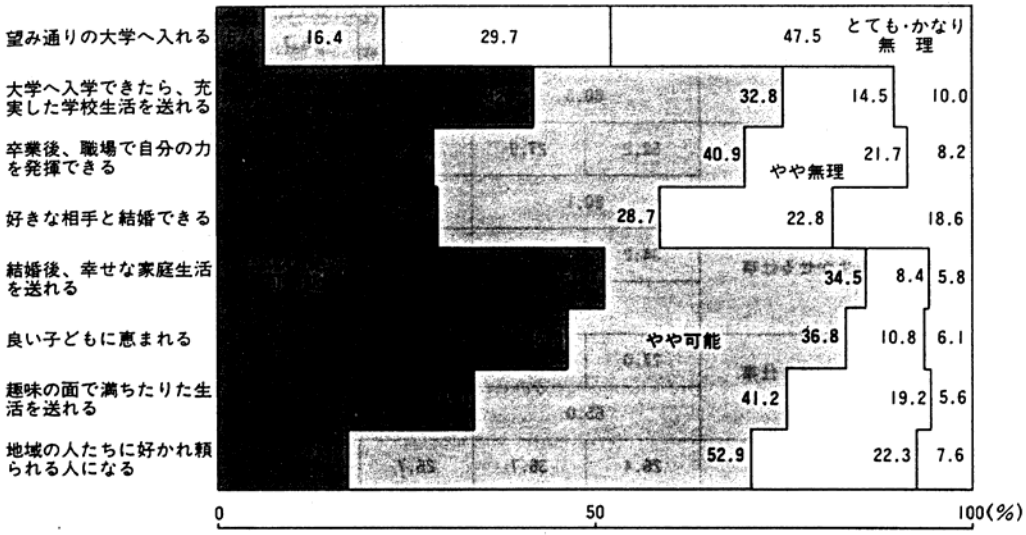
①……家庭81% ＞ 19%趣味
②……家庭80% ＞ 20%お金
③……仕事75% ＞ 25%趣味
④……仕事65% ＞ 35%お金
⑤……趣味63% ＞ 37%お金
⑥……家庭57% ≫ 43%仕事
（差が20%以下の項目には≫をつけている）

さらにこれらを、家庭、趣味、仕事、お金の4つの領域でまとめてみると、全体の傾向が

家庭 ＞ 仕事 ＞ 趣味 ＞ お金

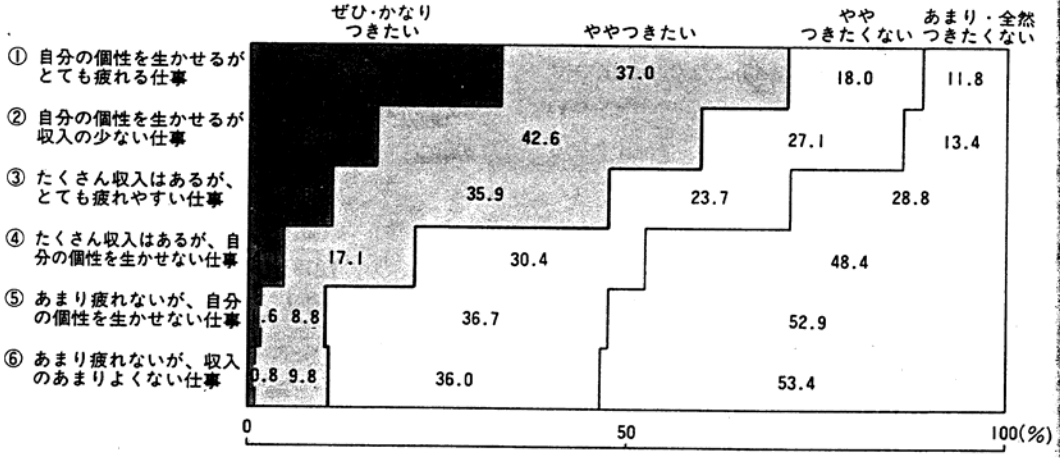
にあるという順序が明らかになる。つまり、お金や趣味よりも、家庭や仕事を大切にした生き方をしたい。その中で、どうしてもひとつというなら、家庭生活をとりたいという考え方であるようである。堅実な生活を送っている女子生徒たちは、大志を抱かず、これまでの女性たちと同じく家庭中心主義の堅実な人生観を持っている。

図Ⅲ－1　女子高校生の将来展望
——唯一、幸せな家庭生活は送れそう——



図Ⅲ－2　女子高校生のつきたい仕事

——個性を生かせる仕事を——



表Ⅲ－1　生活の仕方

——家庭生活を大事にしたい——

(%)

	(A)	ぜひ	まあ	まあ	ぜひ	(B)
		(A)		(B)		
①	幸せな家庭をつくる	39.8	40.7	12.8	6.7	自分の趣味を大事に生きる
		80.5		19.5		
②	幸せな家庭をつくる	52.2	27.9	12.4	7.5	お金のもうかる仕事につく
		80.1		19.9		
③	自分の才能を生かせる仕事につく	34.2	40.3	16.4	9.1	自分の趣味を大事に生きる
		74.5		25.5		
④	自分の才能を生かせる仕事につく	27.0	38.0	24.0	11.0	お金のもうかる仕事につく
		65.0		35.0		
⑤	自分の趣味を大事に生きる	26.4	36.7	26.7	10.2	お金のもうかる仕事につく
		63.1		36.9		
⑥	幸せな家庭をつくる	29.9	27.4	24.0	18.7	自分の才能を生かせる仕事につく
		57.3		42.7		

2. 高校生の抱く家庭の姿

女子高校生たちは、家庭に夢を抱いているようであるが、そうした彼女らは、結婚後、どのような夫婦生活を送ろうとしているのであろうか。

表Ⅲ－2は、「あなたは将来結婚したら、どんな暮らし方をしたいと思っていますか」と結婚生活についての希望をたずねた結果である。①～⑩の項目それぞれが、(A)と(B)の対になっており、「絶対・まあ(A)」の反応の偏りが大きい順に示してある。

(A)の生活は、どちらかというと新しい夫婦関係を想定して作られているが、半数以上の女子生徒たちが反応した項目は、「①結婚後も友だちとして異性とつき合う」80%、「子どもは1～2人持つ」78%、「③親とは別居する」55%のたった3項目に限られていた。逆に(B)の、伝統的な性別分業意識を肯定している女子生徒たちは多い。代表的な項目をひろってみると、「⑤妻は働かず家庭にいる」62%、「⑦夫は家事を手伝わなくてよい」73%、「⑩夫に弁当を持たせたい」93%などである。

女子生徒たちは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」に象徴された、性別役割分担を受け入れた家庭観を持っているようにみえる。

しかし世の中の主婦たちが、家庭以外の場に生きがいを望みつつあることを考えると、女子生徒たちも意識転換が必要であるように思われる。

まだまだ伝統的な意識にとらわれている女子高校生たちも、数年前の高校生よりは、意識が変わってきているのであろうか。

図Ⅲ－3は、昭和56年の高校生男女と本調査の女子高校生を比較した結果である。56年の調査結果には、「①結婚後の異性とのつき合い」と「⑦夫の家事手伝い」の2項目の性別結果を得られなかったので省略している。昭和56年の女子生徒と、現代の女子生徒の意識で差が開いているのは、「⑤妻も働く」「⑥子どもを産む時期はなるべくゆっくり」「⑧出産後も二人だけで外出する」である。いずれもサンプルは異なるので、安易な結論は控えたいが、この4年間のうちに徐々にではあるが、意識の変化が起こっているのを暗示している。

表Ⅲ－2　結婚後の暮らし方

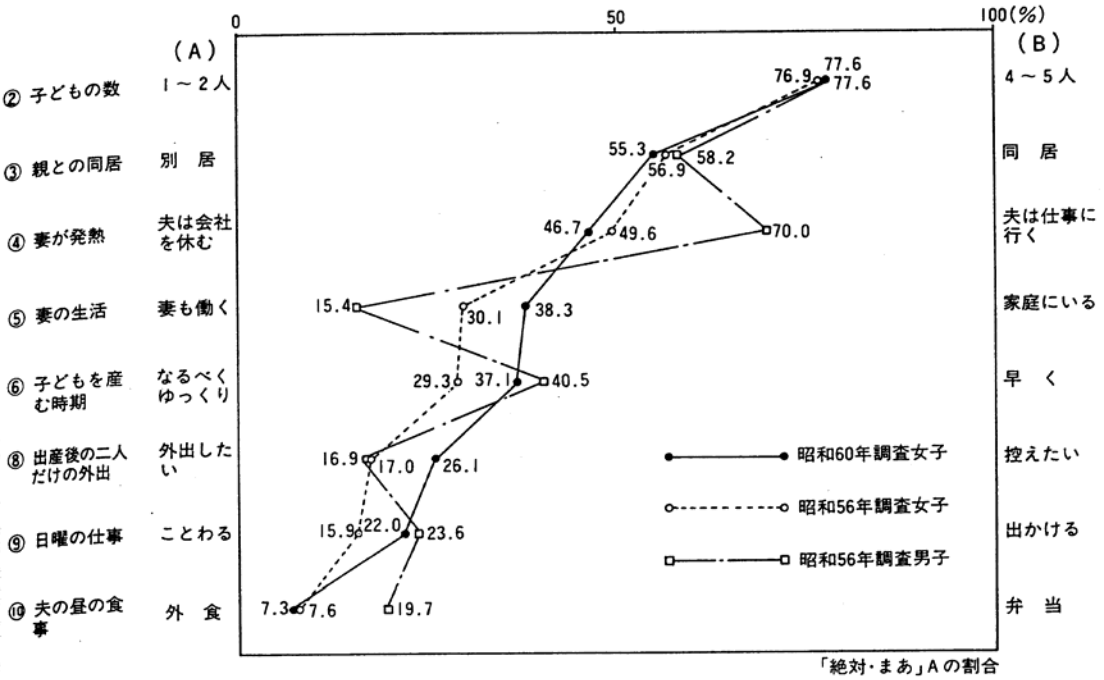
——性別役割分担を理想としている——

(%)

	(A)	絶対	まあ	まあ	絶対	(B)
		(A)		(B)		
① 結婚後の異性とのつき合い	つき合う	25.3	54.6	14.9	5.2	つき合わない
		79.9		20.1		
② 子どもの数	1～2人	38.6	39.0	16.0	6.4	4～5人
		77.6		22.4		
③ 親との同居	別　居	26.2	29.1	37.5	7.2	同　居
		55.3		44.7		
④ 妻が発熱	夫は会社を休む	15.1	31.6	38.8	14.5	夫は仕事にいく
		46.7		53.3		
⑤ 妻の生活	妻も働く	10.8	27.5	37.0	24.7	家庭にいる
		38.3		61.7		
⑥ 子どもを産む時期	なるべくゆっくり	9.0	28.1	42.9	20.0	早　く
		37.1		62.9		
⑦ 夫の家事手伝い	するのが当然	7.5	19.9	40.3	32.3	しなくてよい
		27.4		72.6		
⑧ 出産後の二人だけの外出	外出したい	8.0	18.1	48.9	25.0	控えたい
		26.1		73.9		
⑨ 日曜の仕事	ことわる	6.1	15.9	58.6	19.4	出かける
		22.0		78.0		
⑩ 夫の昼の食事	外　食	2.0	5.3	42.4	50.3	弁　当
		7.3		92.7		

◯＝最大値

図Ⅲ－3　結婚後の暮らし方〈昭和56年と昭和60年の比較〉



3. 女子高校生が望む女性の生き方

高校生の大きな発達課題のひとつは、自分の人生を大枠な形にせよ設計することだといわれる。現代の女子高校生は、女性としてどのような生き方を胸に抱いているのであろうか。ここでは、女子高校生が、これから歩もうとしている生き方を探ってみることにしたい。

まず、女性の生き方として、5つのタイプを設定し、どれが望ましいと思うかをたずねてみた結果が**表Ⅲ－3**である。このうち、「仕事を大事にし、いざとなれば独身でもよい」13%、「仕事を持ち、家庭と両立させる」33%とは、仕事を一生続けていくのがよいとする仕事志向派のタイプである。それに対し、「子育てを終えてから、また仕事を始める」16%、「主婦の生活を大事にし、仕事はパートぐらい」25%などは、主婦のつとめを果たすことを優先し、できる範囲で仕事も持つのがよいとする家庭尊重派のタイプである。そして、「専業主婦」で仕事はしないのがよいとする専業主婦派のタイプも13%を占める。このように5つのタイプは、現在の主婦像に照らし合わせてみると、3つのタイプに要約されよう。つまり、家庭との両立を図るにせよ、仕事をすることを重視して、フルタイムで働くというフルタイム型の仕事志向派と、子育てなどの主婦としての生活を大事にし、家庭生活に支障のない程度に働く手段としてパートで働くという家庭尊重派と、職業としての仕事を全く持たない専業主婦派である。そしてこの3つのタイプでみてみると、仕事志向派(45.4%)、家庭尊重派(41.2%)と共働きを望ましいとする者は87%おり、専業主婦がよいとする者は13%ということになる。ここらに変わらないといっても、仕事を持つ生活があたりまえになっているのが感じられ、時の移りかわりが暗示される。

仕事志向派のように、フルタイム型が女性の生き方として望ましいと考えている女子生徒たちは、これまでの女性の生き方に変革を試みる新しいタイプの女性であろう。そして、現状の母親像を維持しようとする家庭尊重派のパート型や専業主婦派とは、将来像の予想に違いが出てくると思われるので、新しい女性像を探ってみることにしたい。

図Ⅲ－4に目を通してほしい。これは表Ⅲ－2でふれたように、生活の中で家庭、仕事、趣味、お金のうち、どれにいちばん価値を置

表Ⅲ－3　望ましい女性の生き方
——専業主婦志向は13%——

(%)

仕事を大事にし、いざとなれば独身でもよい	12.5	45.4
仕事を持ち家庭と両立させる	32.9	
子育てを終えてからまた仕事を始める	16.4	41.2
主婦の生活を大事にし、仕事はパートぐらい	24.8	
専業主婦	13.4	

いているのか、将来の生活設計に関連させて確かめた結果である。当然のことながら、パート型と専業主婦型は、家庭を優先させる考え方をしており、それに対しフルタイム型は、家庭よりも仕事を大事にして生活したいと答えている。

こうした事情をもう少しくわしく考察してみよう。

	フルタイム	パート	専業主婦
仕事より家庭	37.9%	<73.5%	≪74.1%
		(そう思う割合)	

のように、フルタイム型は仕事を優先するのに対し、パートや専業主婦型は家庭を大事にする。したがって

フルタイム型　仕事≫家庭＞趣味＞お金

パート／専業主婦 型　家庭≫仕事≫趣味＞お金

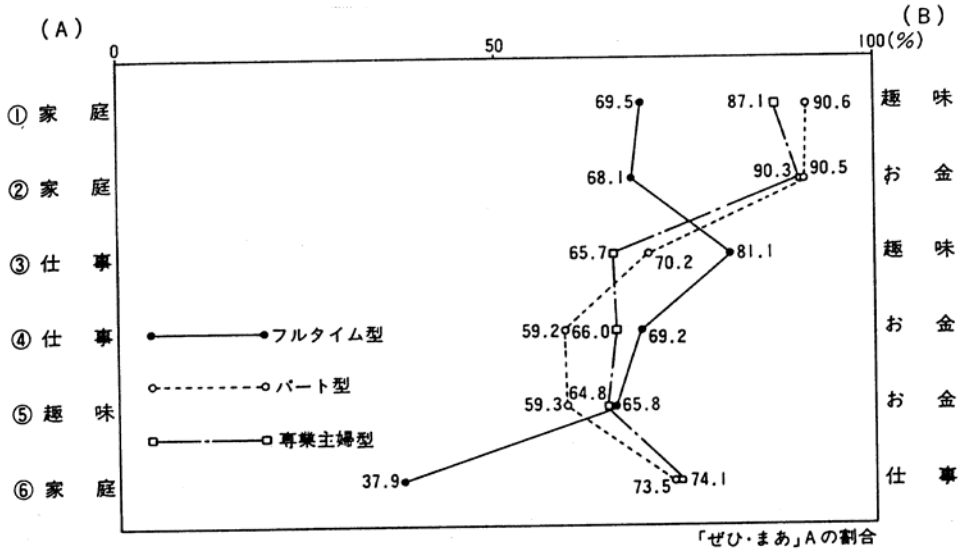
のような感じになる。

そこで、もう少し具体的に結婚後の家庭生活のスタイルにスポットをあてて、将来設計との関係をとらえてみたい。**図Ⅲ－5**から明らかなように、差の開いている項目の設問（巻末資料1「調査票見本」P.62参照）のことばを生かしながら、全体の傾向を要約してみよう。

フルタイム型は、夫にまあまあの収入があっても働く(⑤)ことを前提とし、夫婦だけの生活を楽しみたいので、子どもはゆっくり作りたい(⑥)。また子どもが生まれても、子どもを親や他人に預けて、週に一度くらいなら二人だけで外出したい(⑧)というように、夫婦二人の生活を充足させたいと考えている。そして役割分担においては、夫に家事の手伝いをしてもらう(⑦)ことを望んでいる。

つまり、フルタイム型は、親子関係中心(子ども中心）の家庭のあり方よりも、夫婦関係中心（おとな中心）の家庭への志向を強めて

図Ⅲ－4　望ましい女性の生き方×生活の仕方

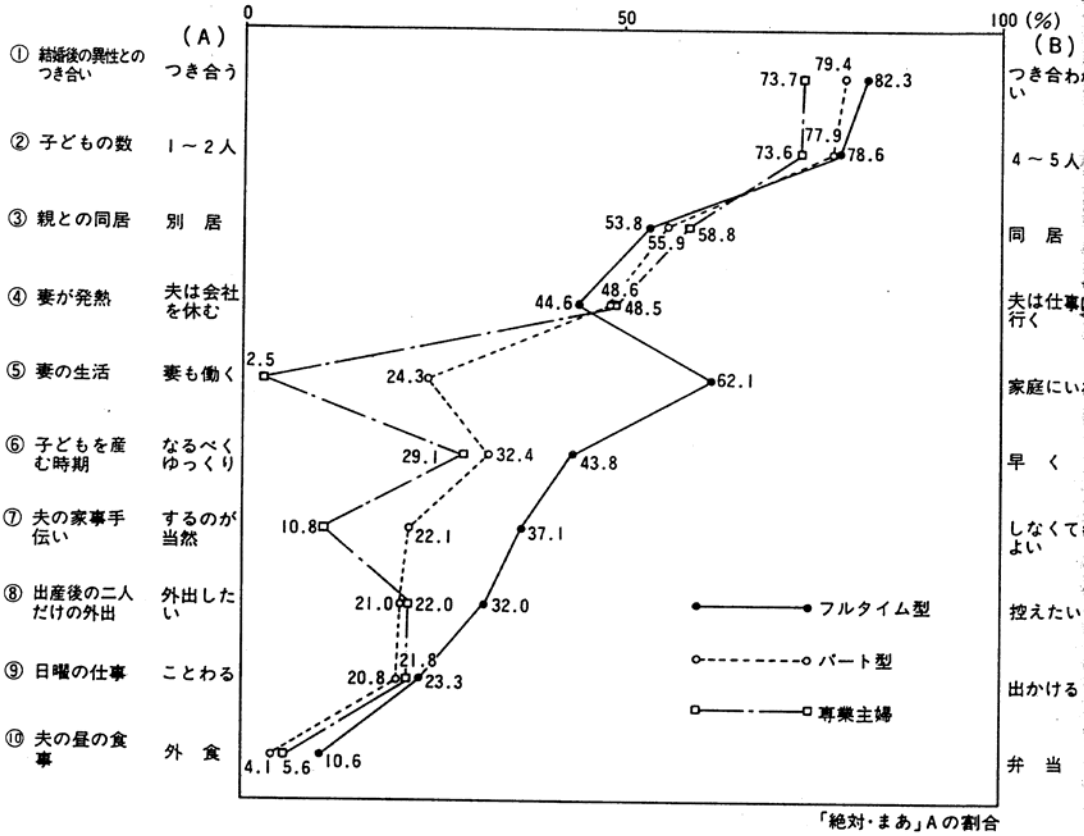


いる。また伝統的な性別役割分担にも、ストップをかけるなど、新しい家庭像を実現してくれる人たちである可能性も強い。

さて、このようにフルタイム型を志向する女子生徒たちは、新しい女性像を築いてくれるようであるが、彼女らの未来は明るいものであろうか。

図Ⅲ－6は、将来展望をみたものであるが、フルタイム型の将来の見通しは、パート型や専業主婦型に比べて、かならずしも明るくない。明るい見通しは「仕事の面で自分の力を発揮できそう(③)」に限られている。それも他のタイプよりも格段に自信があるわけではないことをみると、仕事に生活の中でいちばん力を入れていくという彼女らだけに、なんとも心細い感じである。そして幸せな家庭生

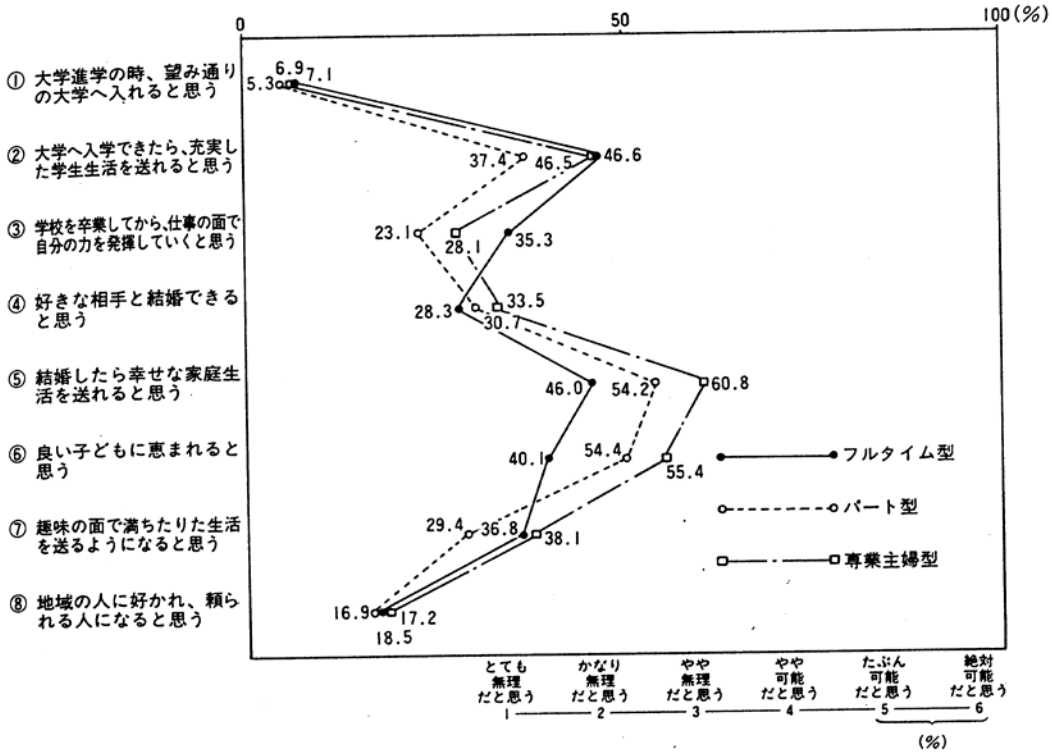
図Ⅲ－5　望ましい女性の生き方×結婚後の生活



活においては、専業主婦型やパート型にはとても及ばない。仕事の上で自立しようとする女性は、さまざまな面で自信を持っているのでは、という期待は裏切られてしまった。しかし、今の世の中では、仕事と家庭の両方で成功している自立した女性を身近に見つけにくいのが現実の姿であろう。

そうすると、新しいタイプの女性を求める彼女らにとって、これまでの母親の生き方や、家庭生活に共感を抱けないことをエネルギーにしないと、新しい女性像を抱きにくいのであろう。そう考えると、家庭に明るい見通しを持てないことにも、うなずける気がする。ともかくフルタイム型を志向する女子生徒は、新しいタイプの女性の生き方を模索している人たちであることに間違いないようだ。

図Ⅲ－6　望ましい女性の生き方×将来展望



4. フルタイム志向の女子高校生像

職業人としても自立しようとする、フルタイム志向の女子高校生とは、どんなタイプの生徒たちであろうか。ここでは、いくつかの側面から彼女らのプロフィールを描いてみることにしよう。

まず学年別にみたのが、**図Ⅲ－7**である。学年が上昇するにつれて、緩やかにではあるが、フルタイム型が増加し、パート型と専業主婦型が減少している。成長とともに、仕事を持つことへの意欲が生じてくることがわかる。

次に学校別を示した**表Ⅲ－4**をみると、フルタイム型は、4校の中では4年制大学への進学率が最も高い九州A校に多く、専業主婦型は、4校中就職率が最も高い近畿D校に多くなっている。卒業後の進路が、女性の生き方に作用することが推測されるので、望ましい女性の生き方と進路との関係でみてみると、**表Ⅲ－5**の通りとなる。フルタイム型は、やはり4年制大学を志望している者が多く、特にむずかしい大学へチャレンジしようとしている者に多い。また一方では、各種学校や専門学校へ行って、専門的な技術を身につけようとしている者にも多い。そしてパート型では就職志望者が、専業主婦型では短大とやさしい4年制大学への志望者が多くなっている。そこでもう一度、専業主婦型の多かった近畿D校の進路先状況をみると、確かに短期大学志望率が、この学校ではいちばん多い。

さて次に、英語や数学の成績、スポーツ、がんばる力についての自己評価と生き方との関係を示したのが、**表Ⅲ－6**である。フルタイム型は、英語が得意であり、自分にはがんばる力があると評価している。パート型はスポーツ、専業主婦型は数学が得意であるという傾向が読みとれよう。

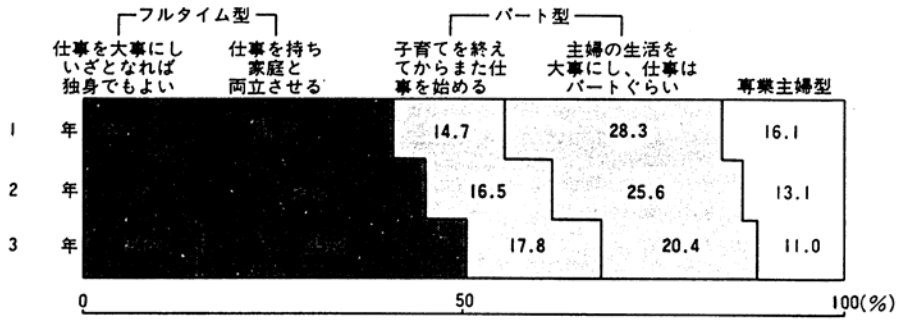
また**図Ⅲ－8**の学校生活の様子をみると、タイプ別に顕著な行動の違いは、見受けられない。しかし、フルタイム型志向の女子生徒たちは、毎朝髪の毛をととのえる(⑤)といったおしゃれをしないようであるし、話題のテレビはかかさず見たり(⑥)、クラスではやりだした物を持つ(⑧)といったタイプではなく、そうじ当番(④)や授業態度(⑦)がまじめな者たちと読み取れないだろうか。

これまでのデータを重ね合わせると、フルタイム志向の女子生徒たちは、高レベルの4年制大学を目指して、おしゃれもせず、ただただがんばり屋でまじめな生徒たちである。こんな彼女らに、「生まれかわるとしたら男に生まれたいですか、それとも女に生まれたいですか」とたずねたら、どのように答えるであろう。

結果は**図Ⅲ－9**の通りであるが、予想通り

図Ⅲ－7　学年×望ましい女性の生き方

――学年が上がると両立へ――



フルタイム型志向の女子生徒たちは、他のタイプを志向している者より、男に生まれかわりたいと答える割合が高い。

表Ⅲ－4　学校×望ましい女性の生き方

(%)

項目 / 学校別	フルタイム型	パート型	専業主婦型
九州A校	50.8	36.5	12.7
北陸C校	45.4	42.0	12.6
東海B校	38.1	52.2	9.7
近畿D校	32.1	47.1	20.8

◯＝最大値

表Ⅲ－5　望ましい女性の生き方×進路
——むずかしい大学＝フルタイム——

(%)

項目 / 属性	就職	各種学校 専修学校	短期大学	やさしい 4年制大学	むずかしい 4年制大学	その他 未定
フルタイム型	9.4	15.2	18.4	11.3	28.1	17.6
パート型	17.8	13.7	24.2	11.0	14.9	18.4
専業主婦型	12.5	10.2	25.1	14.0	19.1	19.1

◯＝最大値

表Ⅲ－6　望ましい女性の生き方×自己評価

(%)

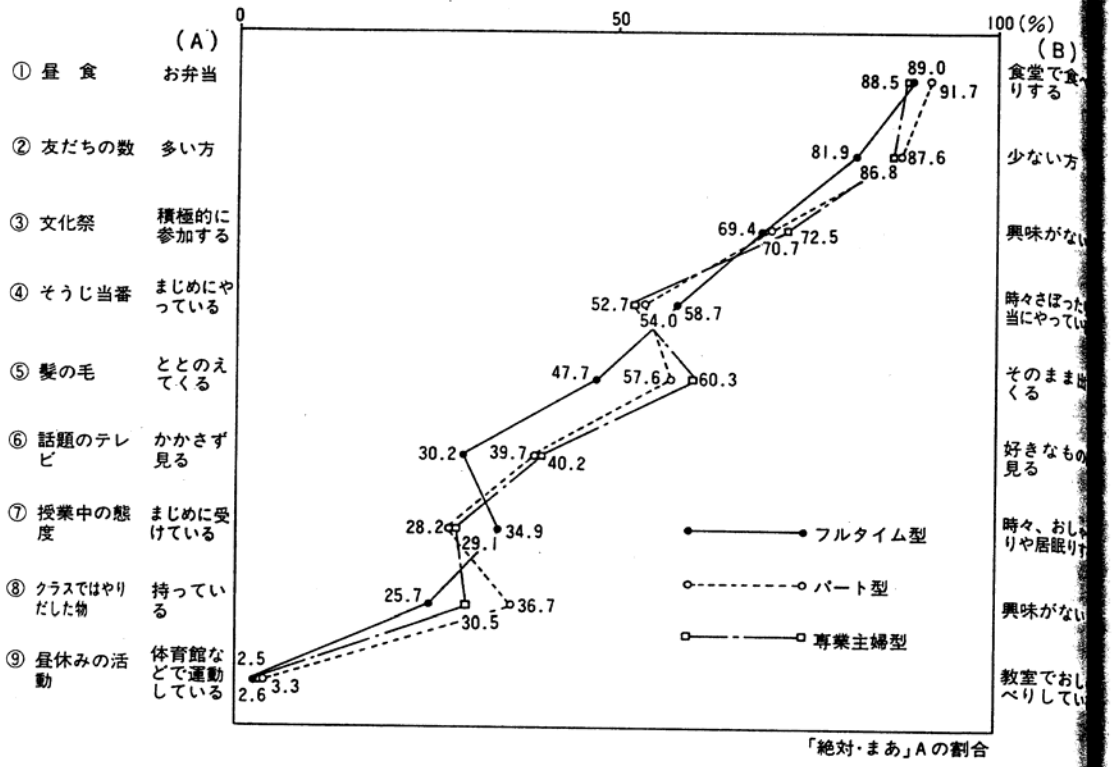
項目 / 属性	英語の成績	数学の成績	スポーツ	がんばる力
フルタイム型	20.3	14.3	23.9	28.2
パート型	16.2	15.7	27.3	24.7
専業主婦型	15.1	18.7	26.0	27.3

◯＝最大値

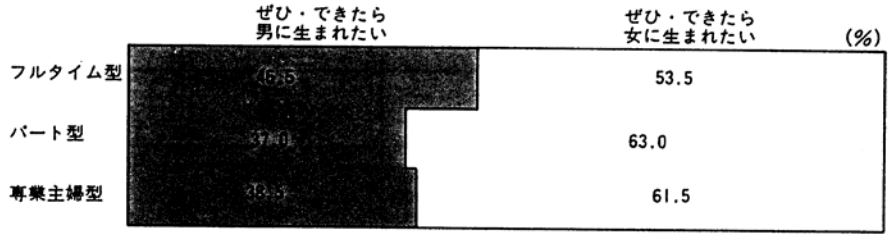
とても得意 1 ―― かなり得意 2 ―― やや得意 3 ―― ふつうぐらい 4 ―― やや苦手 5 ―― かなり苦手 6 ―― とても苦手 7

(%)

図Ⅲ－8　望ましい女性の生き方×学校生活の様子



図Ⅲ－9　望ましい女性の生き方×男に生まれたいか、女に生まれたいか



5. 新しいタイプの女性はこうして作られる——

少女たちがどんなパーソナリティの女性になり、どんな人生を歩んでいくかは、結局、幼い頃からの、一日一日の生活の中で方向づけられている。

そこで最後に、女子高校生たちが育ってきた家庭環境のうち、親のしつけに限って、関係を見ることにしよう。

まず、持ち物のしつけについて見たのが、表Ⅲ－7である。

高校生がどんな物を持っているかは、すでに第Ⅰ章で述べたが、持ち物にはその生徒の持っている個性が出ることはもちろんであるが、と同時に、経済力のない生徒たちは、親のお金と承認を得なければ、それを持てないのであるから、親のコントロールの状況もわかるわけである。

表をみると、ラジカセやピアノ、ステレオなどの「音楽に関する物」、百科事典や文学全集などの「勉強に関する物」、「スポーツに関する物」、化粧品などの「おしゃれに関する物」の4領域に分けて、その所有率をみている。顕著な差は認めにくいが、専業主婦型はどの領域においても所有率が高く、フルタイム型は勉強に関する物の所有率が高い傾向があるようだ。概して、専業主婦型の女子生徒は、親に甘やかされているようである。

次に、母親からいつも言われていることとの関係を示したのが、図Ⅲ－10である。全体の傾向を要約すると、フルタイム型は母親に「③これからは、女の人も手に職を持たなければいけない」や「④一人でも生きていけるようにならなければいけない」といつも、あるいはかなり言われており、専業主婦型は「⑤女の子は幸せな結婚をするのがよい」「⑥女の子は人にかわいがられるようになりなさい」「⑦女の子は女の子らしく勉強はほどほどでよい」といつも、あるいはかなり言われている。そしてパート型は、その中間に位置している。つまりフルタイム志向の女子生徒は、事あるごとに、母親から女性も仕事を持って自立していかなければならないと説かれているのに対して、専業主婦志向の女子生徒は、男性に守られて幸せな結婚生活を送ることを説かれている。女子高校生の抱く望ましい女性像は、母親から与えられた情報の影響が大きい。

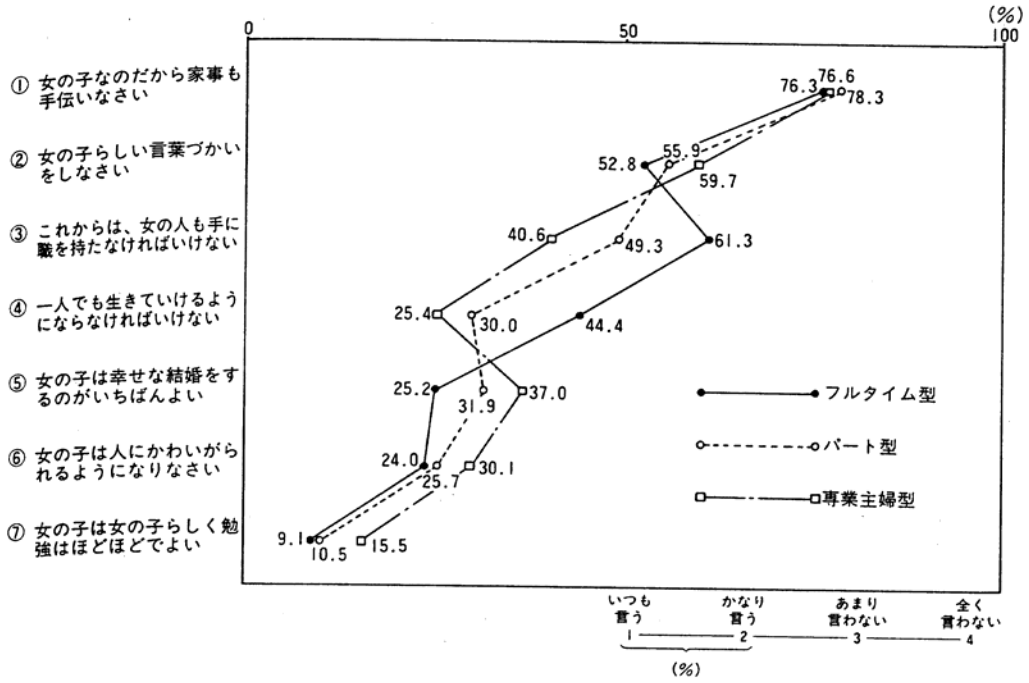
かつてボーヴォワールは、「人は女に生まれない。女になるのだ」と、女性に対する社会の抑圧を問題にしたが、このデータをみると女性の自立を促すのが女性であれば、自立を阻むのも女性である感じを受ける。特に少女にとって、直接的な女性のモデルである母親の甘やかしや、伝統的な女性像の伝達は、少女の自立の芽をつむ結果になっている。自立した新しい女性を期待するためには、子育てをしている母親たちの意識の転換が必要であろう。

表Ⅲ－7　望ましい女性の生き方×自分用として持っている物

——豊かだと専業主婦型へ——

(%)

		フルタイム型	パート型	専業主婦型
音楽に関する物	ラジカセ	80.3	79.1	82.3
	ピアノまたはオルガン	54.2	51.2	52.3
	ラジオ	48.1	50.3	55.1
	ステレオ	33.6	32.5	37.4
	ギター	15.4	13.1	15.4
	ウォークマン	12.8	13.3	20.2
	テレビ	11.6	15.3	18.7
勉強に関する物	百科事典類	41.6	39.8	43.4
	電　卓	23.3	23.4	25.3
	文学全集	15.0	13.5	13.9
	顕微鏡や天体望遠鏡	9.9	6.6	9.3
	タイプライター	5.3	2.6	4.5
	パソコン(マイコン)	2.4	1.4	2.3
スポーツに関する物	バドミントンの道具	43.7	43.3	45.2
	テニスラケット	32.5	34.6	40.2
	スキーの道具	14.4	15.0	17.4
	ローラースケートの靴	10.0	9.5	13.4
	アイススケートの靴	1.3	1.4	1.8
	スケートボード	1.4	1.1	1.0
	サーフィンボード	0.3	0.0	0.3
おしゃれに関する物	リップスティックや口紅	74.4	81.4	79.5
	ハンドバッグ	62.0	62.7	63.6
	香水やコロン	55.7	65.8	65.9
	化粧水や乳液	53.2	61.1	62.1
	ドライヤー	53.4	57.0	58.6
	マニキュア	33.8	42.0	38.4
	ヘアクリーム	35.5	37.3	37.1
	アイラッシュカーラー	15.9	17.9	22.0
	アイシャドウ	15.2	17.8	18.9
	ファンデーションやおしろい	13.4	15.6	15.9

◯＝最大値

図Ⅲ－10　望ましい女性の生き方×母親からいつも言われていること